

独立行政法人地域医療機能推進機構横浜中央病院附属看護専門学校

授 業 計 画

基礎・専門基礎分野のねらい

基礎・専門基礎および専門のそれぞれの分野の有機的関連を重視し、人間を幅広く理解し、科学的思考力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す学習をねらいとする。また、国際化及び情報化社会にも対応できる基礎的能力を養う。

基礎分野(科学的思考の基盤)

授業科目	哲 学	講 師	実務経験なし		
時期	1 学年 前期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい あらゆる物事の本質について探求し、物事をどのように考えたら良いのかを学ぶ。</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学的思考の目的と方法を知る。 2. 人間の生物的特徴を理解し人間の尊厳について考え方を深めることができる。 3. 生命倫理について考えを深めることができる。 4. well-being の実現を看護に結び付けて考えられる。 5. 死生観を理解し考えを深めることができる。 					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学校で学ぶもの 高等教育の意味 中等教育との違い 自分の人生設計と実践 2. 自己教育における主体性について 戴帽式までの期間 患者の前に出る資格 3. 「看護」 聖職者論と「マルクスの労働価値説」「サラリーマン根性」に陥らず看護することの大切さ 4. 「人間関係論としての看護」「ヒューマニティーの幸福論」 養老猛著『バカの壁』における $f = ax$ の「a」の意味 5. 相手の立場に立ち、「ちょっとした優しさ・気配り・思いやり」をもつということを「高山さんの看護」から説明 6. $f = ax$ の「a」の根底にあるべき「おもてなしの心」と「江戸しぐさ」 「生きる姿勢・構え」と「看護における関わりの姿勢」の関連性 7. 「ホスピタリティー」という言葉から相手の立場に立つ「共感」の本質を考える 8. 「存在する意味」を宇宙からの視点と個人からの視点で考察する 9. 科学的帰納法に対して宗教的演繹法 「出会いの神秘」を諺から考える「祖で振れ合うも他生の縁」 10. 「情けは人のためならず」という諺の意味 「めぐる優しさ」を考察する 11. 「価値感受性への共感」の意味とその一般式 12. 「私の中のあなた」を「価値感受性への共感」を貫く原理として考える 13. 全体の講義のまとめ 14. 人生に対してのメッセージ ①マザーテレサ②ヘレンケラー 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	講義の際、プリントを配布				
【評価方法】	レポート試験 100%				

基礎分野(科学的思考の基盤)

授業科目	論理的思考		講師	実務経験なし	
時期	1 学年	前期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい</p> <p>正しい思考の形式と法則を学ぶ。また、論理的思考、文章表現を学ぶことにより他者の考えを理解し、自己表現能力を高める。</p> <p>学習目標</p> <p>1. 論理展開の明確な文章が作成できるための、思考や文章表現に必要な知識・用法を身につける</p>					
<p>おもな内容</p> <p>1. 論理とは何か</p> <p>2. 命題と論理</p> <p>3. 推理と判断</p> <p>4. 文章の理解と論理の展開 三段論法</p> <p>5. 文章の論理性</p> <p>6. 文章の読解 論文の種類と構成</p> <p>7. 文章の読み書き(論評) 小主題論文を読み解く 文章の書き方：論文作成 (文章表現力含む)</p> <p>8. ディベート</p>					
講義	20 時間	演習	8 時間	修了試験	2 時間
【テキスト】	看護師のための文書ノート 看護協会出版会				
【評価方法】	終講レポート 100% 講義で出される課題レポート点を加味する。				
【その他】	講義の中で漢字テストなども行う。				

基礎分野(科学的思考の基盤)

授業科目	情報科学		講師	実務経験なし	
時期	1学年 前期		単位数	1単位	30時間
<p>ねらい 高度の情報社会や医療現場の情報機器に対応できる基本的知識と情報機器の操作を習得し、看護研究に活かす素地を培う。</p> <p>学習目標 実際にパソコンを使用し、コンピューターの仕組みと操作方法から初めて、情報を整理するための基本的な文書処理や数値処理の仕方を学ぶとともに、医療看護に必要なとなる生体信号・医用画像のコンピューター処理に関する基礎も習得する。</p>					
主題			内容		
1. 導入 2. 情報の基本概念			1. 導入 2. インターネット利用状況 3. 個人情報保護の意識 4. 人口動態・医療費の推移		
3. 医療・保健・福祉と情報システム			1. 医療・保健・福祉のデータ・情報のシステム 2. 介護医療の連携 3. 遠隔医療 4. テレラジオロジー、テレパソロジー		
4. コンピューターの基本操作			1. コンピューターとは 2. コンピューターの歴史 3. コンピューターの構造・機能 4. ネットワークの仕組み 5. コンピューターリテラシー・情報リテラシー 6. コンピューターウイルス・セキュリティー、暗号化・認証 7. 国の情報施策・DPC・医療介護の連携		
5. 看護情報処理			1. 病院機能・病院情報システム 2. 病院の情報化 3. オーダリングシステム・電子カルテ 4. 病院での情報の流れ 5. 医の倫理・看護の倫理 6. 看護情報システムの概要と課題 7. 病院機能評価・看護の質の向上		
6. 看護研究における統計処理			1. プライバシー・個人情報・個人情報保護 2. 個人情報保護ガイドライン 3. 医療・介護分野の個人情報の取り扱い 4. 現場での個人情報保護、リスク管理、PHI		
7. まとめ			1. 今後の情報化 2. 今後の個人情報保護		
講義	26時間	演習	2時間	修了試験	2時間
【テキスト】	系統看護学講座 看護情報学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 100%				

基礎分野(科学的思考の基盤)

授業科目	生 物 学		講師	実務経験なし	
時期	1 学年	前期	単位数	1 単位	15 時間
<p>ねらい 生き物をその共通性を通して理解する。また、生命についての考え方、生物学を通して人体のメカニズムを理解する基盤とする。</p> <p>学習目標 生命活動の基本としての生物学を学ぶことによって、専門課程への学習を進める基盤づくりをめざす。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能 細胞の数・大きさ 細胞内小器管 2. 生体内代謝 能動・受動輸送、浸透圧　イオンチャンネル 3. 浮腫について　タイプ 4. 脱水について　腎臓　尿細管 5. 生体情報物質の働き DNA・RNA 転写・翻訳 6. 遺伝と異変 遺伝病 7. 免疫について 					
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
【テキスト】	系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	教 育 学		講師	実務経験なし	
時期	1 学年	後期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 人間の可能性を引き出すための教育の意義や方法を学び、看護活動に生かすことができるようにすると共に、生涯学習や、自己教育力を養う素地を培う。</p> <p>学習目標 人間教育を考える際に必要な、教育心理学的な基本概念を身につける。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育論・授業論の変遷 2. 教授と指導の違いについて 3. 学習の理論 4. 教育・学習とコミュニケーション 5. 教育・学習とケア 6. 教育・学習とカウンセリング 7. 教育評価について 8. パフォーマンス評価 ルーブリック評価 9. 指導の歴史的変遷 10. 指導の今日的役割について 11. パフォーマンス評価 12. 授業の振り返り 					
講義	24 時間	演習	4 時間	修了試験	2 時間
【テキスト】	新体系看護学 基礎科目 教育学 メヂカルフレンド社				
【評価方法】	筆記試験+レポート 100%				

基礎分野(科学的思考の基盤)

授業科目	看護と物理		講師	放射線技師として実務経験あり	
時期	1 学年	前期	単位数	1 単位	15 時間
<p>ねらい 物理学の基礎的概念について理解し、看護実践に活用できる素地を養う。</p> <p>学習目標 看護実践の場面の中で、物理学がどのように活用されているかを考えられ、自己の看護実践に活用できる。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 物理学とは 単位について 2. 力と運動 <ol style="list-style-type: none"> 1)ベクトルとスカラー 2)速度と力 3)力とモーメント 4)圧力 5)吸引器と吸引の物理 3. 熱現象 4. 波動・音・光 5. 電気及び磁気 放射線について 6. 看護と物理学の応用 <ul style="list-style-type: none"> 感覚器の物理 点滴静脈注射と物理 血圧 					
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
【テキスト】	看護学生のための物理学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	臨床心理学		講師	臨床心理士として実務経験あり	
時期	1 学年	前期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 表面に現れた行動から人間の内面の心理の推測を科学し、心理学的なものの見方、考え方について学ぶ。人間や自分についての理解を深め、人間に対する幅広い視点を育てる。また、心理臨床の基礎理論や心理臨床実践の基礎について学ぶ。</p> <p>学習目標 臨床心理学の基本理論と諸技法の概要を理解し「こころ」への援助のあり方と看護実践への応用・展開について学ぶ。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学とは何か 2. 発達心理 3. 社会心理学 4. 傾聴 ワーク 5. 芸術療法(コラージュ療法体験) 6. ストレスとレジリエンス 7. 自律訓練法 ワーク 8. 精神疾患 9. 人格心理学 10. 心理検査～自分を知る(自己分析)～ 11. 看護職と燃えつき 12. 喪の作業～キューブラー・ロス～ 13. 記憶と情緒 14. 学習理論～条件づけ～ 					
講義	20 時間	演習	8 時間	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 心理学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	人間関係論 I		講師	臨床心理士として実務経験あり	
時期	1 学年 前期		単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 自己と他者との相互作用について知ると共に、看護に必要な人間関係能力を高める。</p> <p>学習目標 日常生活の中でよりよい対人関係を持続していくための基本を身につける。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の再考 2. コミュニケーション力とは 3. コミュニケーション力を高める パートナー紹介 4. コミュニケーション力を高める 応答練習 5. コミュニケーション力を高める モダリティ探し 6. コミュニケーション力を高める 目隠し探検 7. 親子関係論 1 8. 親子関係論 2 9. 親子関係論 3 10. (社会的)対人関係論 1 11. (社会的)対人関係論 2 12. (社会的)対人関係論 3 13. (社会的)対人関係論 4 14. (社会的)対人関係論 5 15. レポート作成 親子関係と(社会的)対人関係 					
講義	20 時間	演習	8 時間	修了試験	2 時間
【テキスト】	指定無し				
【評価方法】	レポート評価 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	人 間 関 係 論 II	講師	臨床心理士として実務経験あり		
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 看護に必要な、基本的なコミュニケーションの技法を身につける。</p> <p>学習目標 保健医療活動の基盤となる人間関係を成立させるために必要なコミュニケーションの基本的知識と技術を学ぶ。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 虐待論 美共有の体験 2. 虐待論 問題行動化 症状化 象徴化 3. 虐待論 しつけと虐待 4. いじめ論 加虐行動の構造的要因 5. いじめ論 利害構造の変更 6. いじめ論 制度的構造の変化 7. いじめ論 連鎖 8. 自己治療論 こころが傷つくということ 9. 自己治療論 私の関心ごとの扱い 10. 自己治療論 人間関係の3パターン 11. 自己治療論 傷の回復 12. 協力論① 13. 協力論② 14. 協力論③ 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	指定無し				
【評価方法】	レポート評価 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	社会学		講師	実務経験なし	
時期	1 学年	後期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 社会的存在としての人間を理解し、人々がさまざまな地域社会に暮らし、多様な社会の中で生活していることを認識する。</p> <p>学習目標 現代社会における医療サービス、医療従事者の課題を考える基礎的知識を養う。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の意味 科学の意味と課題 認識の方法、経験論と観念論 2. 看護社会学の課題と方法 教育、専門職の意味、労働の意味、看護と診療の関係、縦社会 3. 看護の概念 4. 安楽死と尊厳死・ターミナルケア、インフォームドコンセント 5. 看護実践(行為) 社会的理論 6. 人間と愛 7. 人間と社会 人間とは何か 健康とは何か 健康問題と存在構造 身体・精神・生活・自然環境 8. 文化環境 教育・情報・技術 9. 社会的弱者(児童・老人・患者・障害者・部落民・在日・LGBT) 10. 女性—フェミニズムの系譜・動向 11. 家族 歴史的変遷 現代社会の諸問題 特徴 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	新体系看護学 基礎科目 社会学 メヂカルフレンド社				
【評価方法】	レポート評価 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	健康科学		講師	医師として実務経験あり	
時期	1 学年	前期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい</p> <p>自ら健康を維持・増進していくための基礎となる科学的知識を学び、健康の概念とその変遷及び現代社会における健康問題や健康づくりについて理解を深める。自己の心身の健康管理、スポーツ活動が行える教養と実践力を育む。</p> <p>学習目標</p> <p>健康的な生活習慣を確立し、健康の増進を図るため、生涯を通じての健康づくりや、運動習慣の確立方法など、健康づくりのための幅広い視野と素養を身に付け、健康運動のための指導方法を習得する。スポーツの基礎となる体力を高めるためのトレーニングの基礎理論並びに方法論についての理解を深める。トレーニングの基礎理論とその方法について、講義と実習を通して、その効果を理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念 2. 健康指導とヘルスチェック 3. ライフスタイルと健康 4. 運動と健康 体力・運動不足 体力トレーニング法 5. 休養・栄養と健康人 6. 心の健康ストレスマネジメント 7. 生活習慣 災害 倫理課題 8. スポーツ種目の実技 <ol style="list-style-type: none"> 1) ドッジボール 2) バレーボール アンダーハンドパス、オーバーハンドパス、円陣パス、サーブ リーグ戦、ゲーム評価 					
講義	14 時間	演習	14 時間	修了試験	2 時間
【テキスト】	健康と社会 放送大学教材 井上洋士 他				
【評価方法】	筆記試験 50%+実技試験 50% 合計 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	外国語 I	講師	実務経験なし		
時期	1 学年 前期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい コミュニケーションに役立つ英語を学習し、異文化、異言語の人とのコミュニケーションが図るようになる。</p> <p>学習目標 日常会話に加え、医療現場に必要な英会話を学ぶ。また文法の構造を確実に理解し会得できるようになる。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction Group Reading 2. unit1: Outpatients' first visit 3. Conversation Practice Survivalkit No1 4. Conversation Practice Reading(new drug) 5. Reading plus Vocabulary 6. Vocabulary Chapter 2&3 7. Vocabulary Survival kit No2 8. Survival kit No3&4 Vocabulary 9. Survival kit No3&4 10. Survival kit No5 Conversation Practice 11. Conversation Practice 12. Conversation Practice 13. Listening Practice Conversation Practice 14. Revision 15. Final Examination 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	看護・医療スタッフの英語 山中マーガレット著 朝日出版社				
【評価方法】	筆記試験 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	外国語Ⅱ	講師	実務経験なし		
時期	2 学年 前期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 外国の医療・看護関係の話題・文献など豊富な英文資料により、看護情報を収集、読解し、広い視野での看護が展開できるようにする。</p> <p>学習目標 看護、医療に関連する内容のある英文を読むことによって、英文の構成や展開を理解することができる。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction Group Reading 2. unit3 : Alzheimer' s Reading 3. unit3 : Alzheimer' s Reading+Listening 4. unit3 : Alzheimer' s Listening 5. unit9 : Cosmetic Surgery Reading 6. unit9 : Cosmetic Surgery Listening Practice 7. unit9 : Cosmetic Surgery Listening unit12 : The Visible Human Project Reading 8. unit12 : The Visible Human Project 9. unit12 : The Visible Human Project 10. unit12 : plus Listening 11. unit11 : Safe Blood &AIDS Prevention Reading 12. unit11 : Safe Blood &AIDS Prevention Reading+Listening 13. unit11 : Safe Blood &AIDS Prevention Listening 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	English for Health and Medicine (ビデオレポート：健康と医療) John S. Lander 朝日出版				
【評価方法】	筆記試験+Listening 試験 合計 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	外国語Ⅲ 英会話 スペイン語会話 中国語会話の いずれか1科目を選択必修とする	講師	英会話 実務経験なし		
時期	2 学年 後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p>ねらい 諸外国の生活習慣などを知り、国際的視野で看護実践ができるとともに、外国人の対象を理解できる能力を培う。</p> <p>学習目標 言語の背景にある諸国の文化を知るとともに、簡単な日常会話のスキルを習得する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction Reading Practice 2. Reading Practice Spina bifida 3. Listening “Awakenings” 4. Listening Practice “Awakenings” 5. Listening Practice “Awakenings” No.2 6. Listening Practice “Awakenings” No.3 7. Listening Practice “Awakenings” No.4 8. Listening Practice “Awakenings” No.5 9. Listening Practice “Awakenings” No.6 10. Listening Practice “Awakenings” No.7 11. Listening Practice “Awakenings” No.8 12. Listening Practice “Awakenings” No.9 13. “Awakenings” Listening Revision 14. Revision& “The Greatest Showman” 15. Final Examination 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	English for Health and Medicine (ビデオレポート：健康と医療)John S. Lander 朝日出版				
【評価方法】	筆記試験(Listening 試験含む) 100%				

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	外国語Ⅲ 英会話 スペイン語会話 中国語会話の いずれか1科目を選択必修とする	講師	スペイン語会話 実務経験なし		
時期	2 学年 後期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 諸外国の生活習慣などを知り、国際的視野で看護実践ができるとともに、外国人の対象を理解できる能力を培う。</p> <p>学習目標 言語の背景にある諸国の文化を知るとともに、簡単な日常会話のスキルを習得する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション アルファベットの読み方 発音の仕方 アクセントのつけ方 単語 スペイン語圏等の国名の発音練習 簡単な挨拶表現 発音練習 S E R動詞を用いた用法 職業や出身地の表現 名詞 冠詞 ser 動詞+形容詞 形容詞と名詞の語順 Estar 動詞の導入と用法 Estar 動詞を使った「状態」の表現 規則活用動詞の導入 規則活用動詞を用いた文例 Estar 動詞の慣用表現 不規則活用動詞を用いた表現 自己紹介文の用例 自己紹介文作文 健康、体調に関する表現 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p>【テキスト】 スペイン語 CD エクспレス スペイン語 白水社(選択科目) 図書室で管理 貸出あり</p>					
<p>【評価方法】 筆記試験(Listening 試験含む) 100%</p>					

基礎分野(人間と生活 社会の理解)

授業科目	外国語Ⅲ 英会話 スペイン語会話 中国語会話の いずれか1科目を選択必修とする		講師	中国語会話 実務経験なし	
時期	2 学年 後期		単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい</p> <p>諸外国の生活習慣などを知り、国際的視野で看護実践ができるとともに、外国人の対象を理解できる能力を培う。</p> <p>学習目標</p> <p>言語の背景にある諸国の文化を知るとともに、簡単な日常会話のスキルを習得する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発音 音節 声調 単母音 子音 2. 発音 子音 複母音 ピンインの綴り方 挨拶言葉 3. 第1課 主語+動詞 4. 第2課 人称代詞 5. 第3課 指示代詞 “的” の用法 6. 第4課 量詞 方位詞 7. 第4・5課 動詞 8. 第5課 数量補語 9. 第6課 助動詞 10. 第6課 自己紹介文を書く① 11. 第7課 助動詞 選択疑問詞 12. 第7課 連動文 自己紹介文を書く② 13. 第8課 状態補語 方向補語 14. まとめの練習問題 発音テスト(自己紹介) 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	図書室で管理 貸出あり				
【評価方法】	筆記試験(Listening 試験含む) 100%				

専門基礎分野(人体の構造と機能)

授業科目	人体のメカニズム I	講師	実務経験なし		
時期	1 学年 前期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。</p> <p>学習目標 正常な身体の形(形態)と働き(機能)について、基本的な知識を習得し、器官相互のつながりや身体全体の調和がどのように維持されているかを理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学とは 2. 組織学 上皮組織・支持組織 3. 骨格系 総論 4. 骨格系 各論 5. 循環器系 総論～心臓・動脈・静脈・リンパ 6. 循環器系 心臓～血管系 7. 循環器系 血管系 リンパ系 梢神経系、自律神経系 8. 呼吸器・鼻腔・咽頭 9. 泌尿器 10. 消化器・口腔 11. 消化器 12. 神経系 総論 13. 神経系 中枢神経系、脳神経系 14. 神経系 末梢神経系 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	パッと引けてしっかり使える 人体解剖用語 ポケット辞典 成美堂出版 系統看護学講座 専門基礎1 解剖生理学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎分野(人体の構造と機能)

授業科目	人体のメカニズム II		講師	医師として実務経験あり	
時期	1 学年	前期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。</p> <p>学習目標 正常な身体の形(形態)と働き(機能)について、基本的な知識を習得し、器官相互のつながりや身体全体の調和がどのように維持されているかを理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学とは 2. 血液と体液 <ol style="list-style-type: none"> (1) 血液の組成と機能 (2) 赤血球・白血球血小板 (3) 血漿タンパク質 (4) 血液凝固と繊維素溶解 (5) リンパ組織と循環 3. 循環・呼吸 <ol style="list-style-type: none"> (1) 血液の循環とその調節 (2) 循環器系の構成と構造 (3) 心臓の構造と機能 (4) 末梢循環器系の構造 (5) 呼吸器の構造と機能 (6) ガス交換とガスの運搬 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎1 解剖生理学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験(呼吸 30% 循環 35% 血液 35%)100%				

専門基礎分野(人体の構造と機能)

授業科目	人体のメカニズム III	講師	医師として実務経験あり		
時期	1 学年 前期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。</p> <p>学習目標 正常な身体の形(形態)と働き(機能)について、基本的な知識を習得し、器官相互のつながりや身体全体の調和がどのように維持されているかを理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化・吸収 <ol style="list-style-type: none"> (1)消化器の構造と機能 (2)口腔～食道 (3)代謝 (4)肝臓の機能と構造 (5)胆のう・膵臓の構造と機能 (6)胃～小腸、大腸・肛門の構造と機能 2. 代謝 3. 体温調節 <ol style="list-style-type: none"> (1)環境と体温調節 (2)異常体温と病態 4. 腎 <ol style="list-style-type: none"> (1)腎臓の構造と機能 (2)腎機能の破綻と病態 (3)尿細管機能と水・電解質代謝 (4)腎による血圧調節 (5)腎による酸塩基平衡 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎1 解剖生理学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験(消化器 50% 腎臓・体温調節 50%) 100%				

専門基礎分野(人体の構造と機能)

授業科目	人体のメカニズム IV	講師	医師として実務経験あり		
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 人体の発生と構造について理解し、人体各器官、系統の形態機能について理解する。</p> <p>学習目標 正常な身体の形(形態)と働き(機能)について、基本的な知識を習得し、器官相互のつながりや身体全体の調和がどのように維持されているかを理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌 <ol style="list-style-type: none"> (1) 内分泌とホルモン分泌の調節 (2) ホルモンの作用機序 (3) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 (4) 甲状腺・副甲状腺 (5) 膵臓 (6) 副腎 (7) 性腺 2. 生殖 <ol style="list-style-type: none"> (1) 男性生殖器の解剖と生理 (2) 女性生殖器の解剖と生理 3. 神経系 <ol style="list-style-type: none"> (1) 脳・神経系の解剖 (2) 脳・高次機能について (3) 神経の上行路と下行路 4. 感覚器 <ol style="list-style-type: none"> (1) 眼組織の構造 (2) 前眼部疾患の例 (3) 耳鼻咽喉の構造と機能 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病の成り立ちと回復② 医学書院				
【評価方法】	筆記試験(耳鼻咽喉 15% 眼 15% 内分泌 25% 生殖器 20% 脳神経 25%)100%				

専門基礎分野(人体の構造と機能)

授業科目	代謝と栄養		講師	管理栄養士として実務経験あり	
時期	1 学年 後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p>ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間にとっての栄養摂取の意義と機能について内部環境や代謝の機能を基盤として理解する。 食事療法の基礎について学ぶ。 <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間が生きていくため、体内におきている酵素の働き、糖・脂質・たんぱく質の代謝、ビタミンの機能など生体内の化学反応について理解する。 健康障害と栄養方法について、疾病系統別の食事療法の実際を学び、栄養管理に必要な知識を習得する。 					
主題			内容		
1. 人間にとって栄養とは			<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養・食事と健康 2. エネルギー必要量の算定 3. 現代社会の食生活の特徴 		
2. 代謝・吸収			<ol style="list-style-type: none"> 1. 糖の種類と代謝・吸収 2. 糖代謝異常 3. 脂質の種類と代謝・吸収 4. 脂質異常 5. たんぱく質、アミノ酸の役割と代謝・吸収 6. ビタミン・ミネラルの食事摂取基準・吸収 		
3. 健康と食事療法			<ol style="list-style-type: none"> 1. 脂質異常・高血圧 メタボリックシンドロームの食事療法 2. 腎障害のある人の食事療法 3. 肝障害のある人の食事療法 4. 低栄養とその対応 5. 栄養ケアとマネジメント 6. 高齢者の栄養と食事ケア 7. 栄養補給法(経腸栄養・静脈栄養) 		
4. 栄養法の実際			<ol style="list-style-type: none"> 1. 調理実習 		
講義	24 時間	演習	4 時間	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座：栄養学 人体の構造と機能 3：医学書院 第 12 版				
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎分野(人体の構造と機能)

授業科目	看護と科学実験法	講師	臨床検査技師として実務経験あり		
時期	2 学年 前期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい</p> <p>看護には、臨床検査の知識は重要である。実験を通して科学的に観察をする能力を養い、学問的好奇心・向上心を助成し、自然科学の実験に必要な技術と態度を培う。</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査の目的や意義を理解する。 2. 疾患の種類とそれらを鑑別するための検査の種類、方法を理解する。 					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験・測定と記録方法報告書の作成 2. 実験の基礎的な諸技術 3. 実験法 血液一般、 尿蛋白・尿糖、 手指常在菌唾液等の検体を使用した細菌検査 4. 臨床検査 臨床検査の目的と意義 血液一般検査、抗原抗体反応 生化学検査、免疫・血清検査 細菌検査 STI 生理検査 病理 採血 検査の進め方 					
講義	12 時間	演習	16 時間	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 50% 実験レポート 50%				

専門基礎分野(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	看護と薬理	講師	薬剤師として実務経験あり		
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 薬の特徴、作用の機序、人体への影響及び、薬の管理について学ぶ。</p> <p>学習目標 薬物を用いた疾病の治療や予防を行う際の基本的な知識を修得し、薬を用いた医療行為の円滑な実践と、薬による医療事故防止が達成されるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主要な薬物について期待されるよう主な作用と重篤な副作用についての知識を得る。 2. 薬の体内動態について理解する。 3. 患者に用いられる薬物の適正な使い方の事例等を通し、薬物の持つ有効性と安全性を理解する。 					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬についての概要 2) 医薬品の安全管理 3) 薬理学の基礎知識 4) 薬理学・薬物受容体・投与経路 5) 薬物の分布・代謝・排泄 6) 薬物の相互作用 2. 各論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 抗感染症薬 2) 抗生剤各論 3) 抗がん剤：概論・各論 4) 抗炎症薬、抗アレルギー薬 5) 末梢での神経活動に作用する薬物 6) 中枢神経系に作用する薬物(麻酔・催眠薬・抗不安薬) 7) パーキンソン治療薬 8) 麻薬性鎮痛薬 9) 心臓に対する薬物(抗血圧薬) 10) 血液に対する薬物(抗凝固薬・抗血小板薬) 11) 呼吸に対する薬物 12) 消化器に対する薬物 13) 糖尿病治療薬(インシュリン注射・内服薬) 14) 救急で使う薬剤 15) 消毒薬 16) 漢方薬 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎 5 疾病の成り立ちと回復の促進 [2] 薬理学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎分野(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	感染予防		講師	実務経験なし	
時期	1 学年	前期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 感染症の概念、病原体の生物学的特徴、宿主における生体反応、滅菌・消毒法、検査材料の取り扱いなど、院内感染患者の看護に必要な知識や技術について学ぶ。</p> <p>学習目標 感染症の原因となる病原微生物を理解し、看護に必要な知識を習得する。また、院内感染予防の重要性を理解し、拡大防止と予防対策に関する知識を習得する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌総論 2. 真菌・原虫総論 3. ウイルス総論 4. 感染 <ol style="list-style-type: none"> (1)滅菌 (2)消毒 (3)化学療法 5. 免疫 <ol style="list-style-type: none"> (1)自然免疫 (2)液性免疫 (3)細胞性免疫 (4)ワクチン (5)アレルギー 6. DNA・RNA ウイルス 7. 感染防止の知識と技術 (スタンダードプリコーション含む) 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門基礎 6 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 微生物学 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	病理学総論		講師	医師として実務経験あり	
時期	1 学年	後期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 疾病についての概念、疾病の原因や病理、形態と機能及び代謝・変化について理解する。</p> <p>学習目標 人体のメカニズムで学習する人体の正常構造や機能に関する知識をもとに、病的状態について理解する。各疾患の病因・発生機序を形態学的見地から理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病理学とは、疾病の概念 2. 病因論 3. 退行性病変と進行性病変 4. 循環障害 5. 炎症・免疫・アレルギー 6. 感染症 7. 腫瘍 8. 先天性異常（奇形） 9. その他 <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器系疾患の病理 2) 呼吸器系疾患の病理 3) 血液・造血器疾患の病理 4) 消化器疾患の病理(食道、胃、大腸、肝、胆、膵) 5) 泌尿器、生殖器系疾患の病理 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	よくわかる専門基礎講座 病理学 金原出版				
【評価方法】	筆記試験 100 点				

専門基礎科目(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	治療総論	講師	医師として実務経験あり		
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 治療の特徴を理解し、治療時における看護者の役割を理解する。</p> <p>学習目標 系統別、各器官臓器別疾患の治療の基盤となる基礎的知識を得る。</p>					
主題	内容				
内科的治療総論	<ol style="list-style-type: none"> 内科的診断法 <ul style="list-style-type: none"> 病歴のとり方 神経的の所見のとり方 フィジカルアセスメント 内科治療の基礎と疾患の理解 <ul style="list-style-type: none"> 薬物療法 				
外科的治療総論	<ol style="list-style-type: none"> 外科的診断法 <ul style="list-style-type: none"> 病歴の聴取 ・ 身体所見 ・ 部位別にみた外科的診断法 手術侵襲と生体の反応 <ul style="list-style-type: none"> 手術侵襲に対する生体の反応 ・ 機序 手術侵襲に対する生体の反応経過 外科的治療の基盤と疾患の理解 <ul style="list-style-type: none"> 出血と止血 ・ 損傷 ・ 炎症と炎症性疾患 ・ 腫瘍(治療を中心) 臓器移植 				
麻 酔 法	<ol style="list-style-type: none"> 麻酔の領域 手術のための麻酔の種類 <ul style="list-style-type: none"> 全身麻酔法…静脈麻酔法、吸入麻酔法 直腸麻酔法、筋肉麻酔法 局所麻酔法…表面麻酔、湿潤麻酔、伝達麻酔 脊椎麻酔、硬膜外麻酔 その他の麻酔法 				
医 療 工 学	<ol style="list-style-type: none"> 医療工学と現代医療、その役割と意義 医療工学による検査、診断、治療の方法 医療工学の進歩による医療現場の危険と安全管理 				
放 射 線 医 学	<ol style="list-style-type: none"> 放射線療法とは、 X線の検査の種類と診断 <ul style="list-style-type: none"> X線撮影 ・ X線透視 ・ C T ・ 造影検査 M R I ・ 超音波診断 放射線治療 <ul style="list-style-type: none"> 放射線治療と方法 ・ 人体に及ぼす影響 ・ 放射線防衛の基本と健康管理 				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 第10版 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 第8版 臨床工学技士入門ガイドブックこれからの医療と新しいライセンス 共立出版社 1998年				
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	疾病と治療 I		講師	医師として実務経験あり	
時期	1 学年	後期	単位数	1 単位	30 時間
学習目的 系統別疾患の診断、症状、治療処置、検査について学ぶ。					
学習目標 系統別、各器官臓器別別に、疾患の概念、病因、病理・病態生理、症状、検査、診断、治療、予防などについて学習し、看護学の実践に役立てられるようにする。					
主題	内容				
循環器系疾患	1. 主な疾患名 虚血性心疾患、心不全、心臓弁膜症、血圧異常、不整脈 心臓・血管手術と術後管理 2. 主要症状 動悸、胸痛、高血圧、呼吸困難、不整脈、浮腫、ショック、チアノーゼ 3. 治療処置 安静療法、薬物療法、食事療法、酸素療法、人工臓器、手術療法、体外循環 4. 検査 心電図、心エコー、X線検査、心臓カテーテル検査				
呼吸器系疾患	1. 主な疾患名 肺炎、COPD、慢性呼吸不全、気管支喘息、気管支拡張症 肺結核、肺がん、胸膜・縦隔・横隔膜疾患 2. 主要症状 咳嗽、喀痰、喀血、胸水、呼吸困難、胸痛、チアノーゼ 肺高血圧、CO ₂ ナルコーシス、呼吸停止、発熱、脱水、電解質異常 3. 治療処置 酸素療法、薬物療法、理学療法、手術療法 4. 検査 X線検査、気管支鏡、血液ガス、肺機能検査、ツベルクリン反応 喀痰検査、細胞診、胸腔穿刺、CT、MRI				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門		成人看護学[2]呼吸器	医学書院	
	系統看護学講座 専門		成人看護学[3]循環器	医学書院	
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	疾病と治療 II		講師	医師として実務経験あり	
時期	1 学年	後期	単位数	1 単位	30 時間
学習目的 系統別疾患の診断、症状、治療処置、検査について学ぶ。					
学習目標 系統別、各器官臓器別別に、疾患の概念、病因、病理・病態生理、症状、検査、診断、治療、予防などについて学習し、看護学の実践に役立てられるようにする。					
主題	内容				
内分泌代謝系疾患	1. 主な疾患名 1) 視床下部疾患 先端巨大症・プロラクチン生産腫瘍、尿崩症 2) 甲状腺疾患 甲状腺機能亢進症(バセドウ病)、低下症、甲状腺癌 3) 副甲状腺疾患 副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症 4) 副腎疾患 クッシング症候群、アルドステロン症、アジソン病 5) 代謝疾患 糖尿病、肥満症とメタボリックシンドローム、痛風 2. 主要症状 甲状腺腫大、眼球突出、皮膚症状、精神症状、不整脈、痛み テタニー発作、満月様顔貌、血糖異常、ケトアシドーシス、口渇、多尿 動悸、冷汗、体重の変化、血圧異常、腎障害、関節炎 3. 治療処置 食事療法、薬物療法、運動療法、手術療法 4. 検査 血糖負荷試験、血液・尿検査、ラジオアイソトープ、甲状腺機能、副腎機能検査				
消化器系疾患 (乳房を含む)	1. 主な疾患名 1) 食道疾患 食道がん 2) 胃腸疾患 胃潰瘍、胃がん、潰瘍性大腸炎、クローン病、虫垂炎、イレウス 腸管ポリープ、直腸がん、肛門疾患、腹膜炎 3) 肝臓・胆嚢疾患 肝炎、肝硬変、肝臓がん、胆嚢・胆管炎、胆嚢・胆管がん 胆石、 4) 膵臓疾患 膵炎、膵臓がん 5) その他 急性腹症、腹部外黄疽、腹水、嚥下障害、食道静脈瘤、腹痛 腹部膨満、腹部腫瘤、肝性昏睡、門脈圧亢進、疼痛、しこり 血性乳腺分泌液、乳房の変化、乳がん 2. 主要症状 おくび、嘔吐、嘔気、食欲不振、吐血、下血、下痢、便秘 3. 治療処置 食事療法、安静療法、薬物療法、手術療法、臓器移植 放射線療法、化学療法、ホルモン療法 4. 検査 糞便・尿検査、肝機能検査、X線撮影、肝生検、腫瘍マーカー 内視鏡・直腸鏡検査、消化管透視、腹部超音波、CT、MRI				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門	成人看護学[6]内分泌・代謝	医学書院		
	系統看護学講座 専門	成人看護学[5]消化器	医学書院		
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	疾病と治療 III		講師	医師として実務経験あり 理学療法士として実務経験あり	
時期	2 学年	前期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 系統別疾患の診断、症状、治療処置、検査について学ぶ。</p> <p>学習目標 系統別、各器官臓器別別に、疾患の概念、病因、病理・病態生理、症状、検査、診断、治療、予防などについて学習し、看護学の実践に役立てられるようにする。</p>					
主題		内容			
脳神経系疾患		<p>1. 主な疾患名 脳・脊髄疾患 脳出血、クモ膜下出血、脳梗塞、脳腫瘍、水頭症 パーキンソン病、多発性硬化症 神経疾患 多発性ニューロパチー、筋萎縮性側索硬化症 その他 中毒性疾患、痴呆、てんかん</p> <p>2. 主要症状 意識障害、言語障害、頭蓋内圧亢進症状、排尿症状、運動麻痺運動失調 けいれん、不随意運動、振戦</p> <p>3. 治療処置 安静療法、薬物療法、理学療法、手術療法、放射線療法</p> <p>4. 検査 脳・神経系検査、反射の検査、運動系・感覚系の検査、失語・失認・失行の検査、腰椎穿刺、超音波検査、脳血管造影、CT、MR I、脳波、脳室ドレナージ</p>			
運動器系疾患		<p>1. 主な疾患名 1)骨折 肋骨・上腕・大腿骨骨折、脱臼・捻挫 2)神経の損傷 脊髄損傷・末梢神経損傷 3)炎症性疾患 骨髄炎、脊椎カリエス、変形性関節症、関節リウマチ、椎間板ヘルニア、骨腫瘍 4)筋・腱・靭帯の損傷 アキレス腱断裂、半月板損傷、靭帯損傷</p> <p>2. 主要症状 機能障害、疼痛、腰痛、異常可動性、四肢の麻痺異常歩行または跛行 膀胱障害、直腸障害</p> <p>3. 治療処置 安静療法(ギプス固定、牽引、副子)、薬物療法、理学療法、作業療法、手術療法</p> <p>4. 検査 X線撮影、筋電図、関節液検査、関節造影、脊髄造影、関節鏡検査、CT、MRI</p>			
リハビリテーション		<p>1. リハビリテーションとは ・リハビリテーションの概念と意義 ・リハビリテーションの場と方法</p> <p>2. リハビリテーションの展開 ・ボディメカニクスと運動機能評価 ・日常生活援助におけるリハビリテーション</p> <p>3. 理学療法・作業療法・言語療法</p> <p>4. ADLにあわせた自助具</p>			
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門	成人看護学[7]	脳・神経	医学書院	第 14 版
	系統看護学講座 専門	成人看護学[10]	運動器	医学書院	第 14 版
	系統看護学講座 別巻	リハビリテーション看護		医学書院	2016 年改定 第 6 版
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	疾病と治療 IV		講師	医師として実務経験あり	
時期	2 学年	前期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 系統別疾患の診断、症状、治療処置、検査について学ぶ。</p> <p>学習目標 系統別、各器官臓器別別に、疾患の概念、病因、病理・病態生理、症状、検査、診断、治療、予防などについて学習し、看護学の実践に役立てられるようにする。</p>					
主題		内容			
血液・造血系疾患		<ol style="list-style-type: none"> 主な疾患名 悪性貧血、再生不良性貧血、白血病、悪性リンパ腫、血友病 主要症状 貧血、出血傾向、DIC、GVHD 治療処置 安静療法、薬物療法、放射線療法、臓器移植 検査 血液検査、骨髄穿刺、リンパ節生検 			
腎・泌尿器系疾患		<ol style="list-style-type: none"> 主な疾患名 腎不全、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿路の感染症、尿路損傷、尿路・性器の腫瘍、尿路結石症、前立腺肥大症、男性不妊症 主要症状 尿の異常、浮腫、高血圧、排尿異常、血液の異常、水と電解質異常、尿毒症、腫脹、腫瘤、疼痛 治療処置 食事療法、安静療法、薬物療法、血液透析、CAPD、破砕療法、手術療法 検査 血液・尿検査、腎機能検査、X線撮影、超音波・内視鏡検査、生検、CT、MRI、男性生殖器検査 			
女性生殖器系疾患		<ol style="list-style-type: none"> 主な疾患名 子宮内膜症、子宮筋腫、子宮がん、卵巣がん 主要症状 月経過多、貧血、腰・下腹部痛、不正出血、月経困難、下腹部腫瘍 治療処置 安静療法、薬物療法、放射線療法、手術療法、化学療法、ホルモン療法 検査 細胞診、組織診、超音波検査、子宮卵巣造影、CT、MRI、X線検査 コルポスコーピー 			
免疫・アレルギー系疾患		<ol style="list-style-type: none"> 主な疾患名 アレルギー疾患 薬物、アナフィラキシー 膠原病疾患 SLE、関節リウマチ 主要症状 呼吸器・消化器症状、皮膚の変化、関節痛関節の変化、精神・神経症状 治療処置 食事療法、薬物療法、理学療法、全身管理 検査 血液検査、免疫検査 			
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門	成人看護学 [9]	女性生殖器	医学書院	
	系統看護学講座 専門	成人看護学[4]	血液・造血器	医学書院	
	系統看護学講座 専門	成人看護学[8]	腎・泌尿器	医学書院	
	系統看護学講座 専門	成人看護学[11]	アレルギー 膠原病 感染症	医学書院	
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(疾病の成り立ちと回復の促進)

授業科目	疾病と治療 V		講師	医師・歯科医師として実務経験あり	
時期	2 学年	後期	単位数	1 単位	30 時間
<p>ねらい 系統別疾患の診断、症状、治療処置、検査について学ぶ。</p> <p>学習目標 系統別、各器官臓器別別に、疾患の概念、病因、病理・病態生理、症状、検査、診断、治療、予防などについて学習し、看護学の実践に役立てられるようにする。</p>					
主題		内容			
眼疾患		<p>1. 主な疾患名 眼球疾患 角膜びらん、単純ヘルペス性角膜炎、強膜炎、ぶどう膜炎、糖尿病網膜症、網膜動脈硬化症、網膜剥離、白内障、緑内障 その他 麦粒腫、結膜炎</p> <p>2. 主要症状 視力障害、視野狭窄、眼精疲労、結膜充血、流涙、眼脂、眼痛</p> <p>3. 治療処置 安静療法、薬物療法、手術療法</p> <p>4. 検査 視力検査、視野検査、眼底検査、眼圧測定、瞳孔検査、涙液分泌検査、CT、MRI</p>			
耳鼻咽喉疾患		<p>1. 主な疾患名 耳鼻疾患 中耳炎、内耳炎、メニエール病、耳管狭窄症、鼻中隔彎曲症、鼻アレルギー、副鼻腔炎 その他 扁桃炎、咽頭がん</p> <p>2. 主要症状 難聴、耳鳴、眩暈、耳漏、頭痛、鼻閉、鼻出血、音声・言語障害、知覚障害</p> <p>3. 治療処置 安静療法、薬物療法、手術療法</p> <p>4. 検査 聴力検査、平衡機能検査、耳管通気検査、内視鏡検査、臭覚検査、X線検査</p>			
皮膚疾患		<p>1. 主な疾患名 湿疹、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、単純ヘルペス、帯状疱疹、ハンセン病、白癬、カンジダ症、熱傷、凍傷</p> <p>2. 主要症状 かゆみ、掻痒感、皮膚の変化、皮膚組織の損傷</p> <p>3. 治療処置 安静療法、薬物療法、手術療法、理学療法</p> <p>4. 検査 パッチテスト、皮内テスト、生検</p>			
歯科および口腔疾患		<p>1. 主な疾患名 齲蝕、歯髄炎、歯肉炎、顎関節症</p> <p>2. 主要症状 疼痛、腫脹、開口障害、咀嚼障害、嚥下困難</p> <p>3. 治療処置 安静療法、薬物療法、手術療法</p> <p>4. 検査 口腔内検査、口腔外検査、X線検査</p>			
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	系統看護学講座 専門	成人看護学[12]	皮膚	医学書院	
	系統看護学講座 専門	成人看護学[13]	眼	医学書院	
	系統看護学講座 専門	成人看護学[14]	耳鼻咽喉	医学書院	
	系統看護学講座 専門	成人看護学[15]	歯・口腔	医学書院	
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(健康支援と社会保障制度)

授業科目	医療論		講師	医師として実務経験あり	
時期	1 学年	前期	単位数	1 単位	15 時間
<p>ねらい 現代の保健医療におけるさまざまな問題について学び、保健医療従事者の一員としての役割を認識する。</p> <p>学習目標 医療の歴史および現状について広く理解することにより、現代医療に要求される知識、技術、倫理およびチーム医療などについて理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の体系 2. 医の倫理 サイエンスアート 3. 医学史 医療技術の進歩 4. わが国の保健医療の現状 5. 各国の医療制度 6. 医療と経済 7. リハビリテーション 8. QOL, 尊厳死 					
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
【テキスト】	系統看護学講座 別巻 医学概論 医学書院				
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(健康支援と社会保障制度)

授業科目	看護と法的責任 I	講師	弁護士として実務経験あり		
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位	30 時間	
<p>ねらい 保健医療について制度や法律、看護にかかわる法律について知識を習得する。</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護行為や、医療行為に関連している関係法規を理解する。 2. 個人情報の保護について基本的な知識を習得する。 3. 看護業務と法的責任、看護の専門性と役割、看護の安全性、医療事故予防対策、インフォームドコンセントなどについて理解する。 					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法曹について 2. 法律の理解 3. 社会保障制度 4. 医行為・業・医療資格 5. 保健師助産師看護師法 6. 日本国憲法 基本的人権、自己決定権、治療拒否 7. 安楽死・尊厳死 8. プライバシー・肖像権 9. 高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法 10. 厚生労働省など ガイドライン 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	看護学生のための法学／改訂版		日本看護学校協議会共済会		
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(健康支援と社会保障制度)

授業科目	社会保障制度	講師	社会福祉士として実務経験あり		
時期	2 学年 前期	単位数	2 単位	30 時間	
<p>ねらい</p> <p>社会福祉と医療・社会保障制度・経済との関連について学び、保健・医療・福祉の統合と協調を理解し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を考える。</p> <p>学習目標</p> <p>社会福祉とは何かについて、その理念、目標を理解するほか、法律や制度・施策の体系、事業などを学習する。また福祉と医療がどのように協働していくのかについて考えることができる。社会保障制度の基本的な考え方、仕組み、制度の現状と課題、中長期的な展望について考える。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の概念、理念、動向 2. 社会福祉の法制度 3. 社会福祉の組織、マンパワー 現代社会の変化 4. 社会保障の体系、給付費 5. 社会保険 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療保険(目的、種類、給付、負担) 2) 介護保険(目的、構造、給付、負担、保険料、財政、課題等) 3) 年金保険(構造、給付、負担) 4) 雇用保険(目的、給付、負担) 5) 労災保険(目的、給付、負担) 6. 生活保護制度 原理原則 種類 過程など 低所得者対策 7. 社会福祉 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者福祉(介護保険外サービス、虐待、権利擁護) 2) 障害者福祉(定義、サービス体系、就労など) 3) 児童福祉(少子化、保育、虐待、子どもの人権、貧困対策) 4) 社会福祉の歴史 (日本、イギリス、アメリカ) 8. 医療・看護と福祉の連携 <p>社会福祉援助とは(DVD視聴)</p>					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
【テキスト】	社会保障と社会福祉 医学書院 2015 年改定 第 16 版 国民衛生の動向				
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門基礎科目(健康支援と社会保障制度)

授業科目	公衆衛生学		講師	実務経験なし	
時期	1 学年	前期・後期	単位数	2 単位	30 時間
<p>ねらい 健康の概念、環境と人間の相互関係や生活関係、環境が健康に及ぼす影響について学び、健康を維持増進するため個の努力のみでなく集団としての社会組織的な対策、保健活動のあり方を学ぶ。</p> <p>学習目標 生活者の健康の保持・増進に向けた公衆衛生学の社会的適応としての公衆衛生活動について理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生とは プライマリーヘルスケア ヘルスプロモーション 2. 人口問題 人口動態統計 3. 健康状態と受療状況 4. 地域保健について 5. 医療機関 産業保険について 6. 母子保健について <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症 2) 予防接種 7. 学校保健について 8. 生活習慣病 9. 生活環境 環境保健について <ol style="list-style-type: none"> 1) 公害 2) 空気、水の衛生 10. 国民生活基礎調査 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p>【テキスト】 講師資料、国民衛生の動向、新体系看護学全書 7 健康支援と社会保障制度 2、公衆衛生学 メヂカルフレンド社</p>					
<p>【評価方法】 筆記試験 100%</p>					

専門基礎科目(健康支援と社会保障制度)

授業科目	健康支援と実際		講師	看護師として実務経験あり	
時期	2 学年	後期	単位数	1 単位	15 時間
<p>ねらい 健康支援と社会保障・生活者の健康で学んだ知識をもとに、健康支援の場の実際を見ることで理解を深める。</p> <p>学習目標 生活者の健康支援の保持増進のため社会における支援の実際を理解できる。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の成り立ち 社会変動、社会の中の個人 2. 個人生活の理解 健康的ライフスタイル 健康日本 21 日常生活と健康問題 3. 現代の生活と社会 日常と非日常 4. 家族について(演習あり) これからの家族 5. 地域社会 人々と地域社会のかかわり (DVD 視聴あり) 6. グローバリゼーション 					
講義	12 時間	演習	2 時間	修了試験	1 時間
【テキスト】	ナーシング・グラフィカ(7) 健康支援と社会保障：健康と社会・生活		メディカ出版		
【評価方法】	筆記試験 100%				

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学目的論	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	1 学年 前期	単位数	1 単位 30 時間		
<p>〈目的〉 生命・人間を対象とする専門職としての看護者に求められていることは何かを知り、今、自分が何をすべきか、どのような姿勢で3学年間の学習を継続すべきかを自覚し、行動できる姿勢を養う。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の本質を理解し、看護の役割と機能について学ぶ。 2. 看護理論の概念・意義を理解する。 3. 主な看護理論の理解を通して活用の実際を知ることができる。 4. V. ヘンダーソンの看護理論について理解を深めることができる。 5. E. ウィーデンバッグの看護理論の概要を知ることができる。 					
主題	内容	授業方法			
1. 看護の本質	1. 看護の本質 1) 看護の定義 ・看護の基本的概念(人間、健康、環境、看護)	講義 4 時間			
2. 看護の変遷	2. 看護の変遷 ・歴史の中の看護 ・F. ナイチンゲール	講義 4 時間			
3. 看護理論	3. 看護理論 1) 看護理論とは 2) 主な看護理論 F. ナイチンゲール/V. ヘンダーソン/I. J. オーランド/E. ウィーデンバッグ/D. E オレム/S. C. ロイ/J. トラベルビー/H. E. ペプロウ)	講義 6 時間			
4. 看護の役割と機能	4. 看護の役割と機能 1) 看護の質保証に必要な7つの要件 2) 看護の継続性と情報共有	講義 2 時間			
5. 保健・医療・福祉と看護活動	5. 保健、医療、福祉と看護活動 1) 看護職者 2) 保健医療チームと看護チーム 3) 看護活動の行われている場所	講義 2 時間			
6. 看護活動における倫理	6. 看護活動における倫理 1) 倫理原則 2) 看護師の倫理綱領 3) 事例を通して学ぶ看護倫理	講義 6 時間			
7. 医療安全と医療の質の保証	7. 医療安全と医療の質の保証	講義 2 時間			
8. 保健医療・看護における国際協力	8. 国際協力 1) 国際交流と国際協力 2) 発展途上に対する協力 3) 国際機関への協力	講義 2 時間			
評価	筆記試験 70% グループワークレポート 30%				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p>〈テキスト・参考文献〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門1 基礎看護学① 看護学概論, 医学書院 ・看護職者の基本的責務 基本法と倫理, 日本看護協会 ・V. ヘンダーソン著 湯植ます訳: 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第2版、ヌーベル廣川 					

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学対象論	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	1 学年 前期	単位数	1 単位 15 時間		
<p>〈目的〉 看護の対象としての人間について理解し、人間の健康と環境との関わりを通して看護の役割を学ぶ。</p> <p>〈目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念を広くとらえて理解する。 2. 人間の健康と環境との関係を理解する。 3. 2における看護の役割を考えることができる。 4. 看護の対象である人間を統合体として理解する。 5. 各自の人間観を育み、今後の学習活動の基盤となる。 6. 患者の概念、特性を理解する。 7. 人間のライフサイクルにおける健康問題と看護の役割を考えることができる。 8. 各健康段階の看護の視点と特性を理解する 					
主題	内容			授業方法	
1. 看護の対象としての個人	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・人間の「こころ」と「からだ」に関する理論 <ul style="list-style-type: none"> ・発達に関する学説 ・ストレス学説 ・危機理論 等 2. 統一体としての人間と健康 <ul style="list-style-type: none"> ・人間とライフステージ ・人間と性 ・人間の欲求 			講義 4 時間	
2. 国民の健康状態	<ol style="list-style-type: none"> 1) 国民の健康と医療(統計から見る) 2) 健康な人々の健康感と健康づくり 3) 患者 4) 出生と死 			講義 2 時間 演習 4 時間	
3. 看護の対象への社会的影響	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保健医療福祉と家族 2) 保健医療福祉とソーシャルサポート 3) 保健医療福祉と地域社会 4) 保健医療福祉と民族・文化 			講義 2 時間	
4. 各健康段階の看護の視点と特性	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康段階とは 2) 各健康段階の関係性 3) 各健康段階の看護の視点 			講義 2 時間	
評価	筆記試験 70% グループワーク 30%				
講義	10 時間	演習	4 時間	修了試験	1 時間
<p>〈テキスト・参考文献〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統別看護学講座 専門 1 基礎看護学① 看護学概論. 医学書院 ・V. ヘンダーソン著 湯植ます訳：看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 ・F・ナイチンゲール著：看護覚え書, 現代社 					

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学方法論 I -①	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	1 学年 前期～後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 看護における看護技術の位置づけを理解し、看護に必要な共通基本技術能力を養う。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 技術の一般概念を踏まえ、看護技術の特殊性(独自性も含む)を理解する。 2. 看護技術を習得する過程を知り、看護技術を習得する上での自己の学習のあり方について考えることができる。 3. 看護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、対象とより良い人間関係を築くための自己表現の基本的知識・技術・態度を知る。 4. バイタルサインに付随するフィジカルアセスメントの重要性、及びバイタルサイン測定の定義・目的が理解できる。 					
主題	内容			授業方法	
1. 看護技術概論	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護技術とは 2) 看護の特徴 3) 看護技術の基本原則 4) 看護技術の構成 5) 基礎看護技術として求められる範囲 6) 看護行為の展開プロセス 			講義 8 時間	
2. コミュニケーション	<ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの種類、基本的構成要素、過程 3) 看護におけるコミュニケーション 4) コミュニケーション、人間関係を促進するもの、阻害するもの 5) コミュニケーション、自己表現のための技術 6) 自己表現の振り返りの実際 			講義 4 時間 演習 2 時間	
3. バイタルサイン	<ol style="list-style-type: none"> 1) バイタルサインの意義 2) 脈拍、血圧、呼吸、体温 3) バイタルサイン測定の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 体温、脈拍、呼吸、血圧の測定方法 (2) 測定値、及び観察事項の記録、報告 4) フィジカルアセスメント後のバイタルサインの異常に伴う援助技術 			講義 6 時間 演習 10 時間	
評価	筆記試験 グループワーク レポート 実技 出欠状況及び学習態度				
講義	18 時間	演習	12 時間	修了試験	2 時間(その他)
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 ・系統看護学講座 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 					

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学方法論 I -②		講師	看護師として実務経験あり	
開講時期	1 学年 前期～後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> 看護における看護技術の位置づけを理解し、看護に必要な共通基本技術能力を養う。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理の必要性を理解し、対象の安全を守るために必要な知識・技術を身につける。 2. 感染防御に必要な基本的技術が実践できる。 3. 罨法の意義、目的、温熱寒冷刺激に対する生態反応を理解し、効果的な温・冷罨法の判断実施ができる。 4. 吸入・吸引の目的原理原則をふまえ、蒸気、薬液、酸素吸入、一時吸引、持続吸引の方法が理解できる。 5. 看護における観察・記録・報告の目的・重要性を理解し、対象が必要としている看護(援助)を判断するための意図的・系統的な観察ができる。 6. 記録の原則と注意すべき事柄をふまえ、必要事項を正確・簡潔明瞭に記録することができる。 7. 看護における共通基本技術のひとつである教育指導技術について理解することができる。 					
主題	内容			授業方法	
1. ボディメカニクス	<ol style="list-style-type: none"> 1) ボディメカニクスの定義 2) ボディメカニクスの目的 3) ボディメカニクスを構成する要素 4) よいボディメカニクスとは 5) 効果的な動作をするための法則 6) 看護行為におけるボディメカニクスの原理と留意点 7) 看護におけるボディメカニクス(演習) 			講義 2 時間 演習 2 時間	
2. 観察・記録・報告	<ol style="list-style-type: none"> 1) 観察 2) 記録 3) 観察と記録(演習) 4) 観察と報告 			講義 6 時間 演習 4 時間	
3. 安全・感染予防	<ol style="list-style-type: none"> 1) 安全を守る技術 2) 感染予防 3) 感染予防の技術 4) 感染防御の技術 5) 内科的手洗い法(演習) 6) 無菌操作の実際(演習) 7) 内科的ガウンテクニック(演習) 			講義 2 時間 演習 2 時間	
4. 罨法・吸引・吸入	<ol style="list-style-type: none"> 1) バイタルサインの以上に伴う援助技術 「罨法・吸引・吸入」(演習) 			講義 4 時間 演習 4 時間	
5. 教育・指導技術	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康教育指導の技術 2) 健康相談とカウンセリングの技術 3) 指導技術の実際 			講義 4 時間 演習 2 時間	
評価	筆記試験 グループワーク レポート 出欠状況及び学習態度				
講義	16 時間	演習	14 時間	修了試験	2 時間(その他)
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 ・系統看護学講座 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 					

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学方法論Ⅱ-①		講師	看護師として実務経験あり	
開講時期	1 学年 前期～後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術能力を養う。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における環境調整の必要性と意義を理解し、病床環境を整える基本的技術が修得できる。 2. 活動と休息の意義及びそれらが身体に及ぼす影響について理解する。 3. ボディメカニクスを活用した体位変換及び移動・移送の技術が習得できる。 4. 対象の状況に応じた援助方法が選択でき、安全・安楽を考えた技術が習得できる。 5. 睡眠障害の原因や誘因、睡眠障害の徴候を知り、安眠への援助について理解する。 					
主題		内容		授業方法	
1. 生活環境		<ol style="list-style-type: none"> 1) 人間にとっての環境の意義 2) 病院における生活環境とその整備 3) ベッドメイキングの方法 4) 病床環境を整える(GW)(演習) 5) ベッドメイキングの実際(演習) 6) 臥床患者のシーツ交換・生活環境のまとめ 7) シーツ交換の実際(演習) 		講義 10 時間 演習 8 時間	
2. 活動と休息		<ol style="list-style-type: none"> 1) 活動・休息・安楽の概念 2) 安楽な体位と体位保持 3) 安静とその弊害 4) 移動と移送 5) 移動と移送の実際(演習) 6) 正常な睡眠と安眠への援助 		講義 6 時間 演習 6 時間	
評価		終講試験、出席状況及び学習態度、レポート、提出物			
講義	16 時間	演習	14 時間	修了試験	2 時間(その他)
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・川口孝泰著：ベッドまわりの環境学，医学書院 ・F. ナイチンゲール著：看護覚え書，現代社 ・系統看護学講座 専門3 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③ 医学書院 ・根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 					

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学方法論Ⅱ-②		講師	看護師として実務経験あり	
開講時期	1 学年 後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術能力を養う。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食の意味について生理的意義・社会的意義・心理的意義から理解できる。 2. 食事摂取におけるアセスメントができ、適切な食への援助技術の選択及び食事介助技術を習得することができる。 3. 人間にとっての排泄の意味について生理的意義・社会的意義・心理的意義から理解できる。 4. 排泄に関するアセスメントができ、対象の状態に適した援助方法の選択とその技術を習得できる。 					
主題	内容			授業方法	
食事と排泄	<ol style="list-style-type: none"> 1) 食事の意義 2) 食事の援助 3) 食事介助の実際(演習) 4) 排泄の意義・生理 5) 排泄の援助 6) 排泄介助の実際(演習) 7) 排泄障害への援助 8) 浣腸の実際(演習) 9) 導尿の実際(演習) 			講義 24 時間 演習 6 時間	
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度 レポート 提出物				
講義	24 時間	演習	6 時間	修了試験	2 時間(その他)
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門 2 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学 ② 医学書院 ・川口孝泰著：ベッドまわりの環境学，医学書院 ・F. ナイチンゲール著：看護覚え書，現代社 ・系統看護学講座 専門 3 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学 ③ 医学書院 ・根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 					

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学方法論Ⅱ-③		講師	看護師として実務経験あり	
開講時期	1 学年 後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術能力を養う。</p> <p><目標> 1. 人間にとっての衣と清潔の意義及び援助の必要性について理解できる。 2. 対象の清潔に対するニーズを満たすための必要な基本的援助後術が習得できる。</p>					
主題	内容			授業方法	
身体の清潔と衣生活	1) 清潔の意義 2) 身体の清潔を保つための援助の方法 3) 衣生活と衣交換の実際(演習) 4) 頭皮の清潔を保つための援助方法(演習) 5) 口腔の清潔を保つための援助方法(演習) 6) 清拭の方法(演習) 7) 陰部の清潔方法(演習)			講義 16 時間 演習 14 時間	
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度 レポート 提出物				
講義	16 時間	演習	14 時間	修了試験	2 時間(その他)
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門 2 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学 ② 医学書院 ・川口孝泰著：ベッドまわりの環境学，医学書院 ・F. ナイチンゲール著：看護覚え書，現代社 ・系統看護学講座 専門 3 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学 ③ 医学書院 ・根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 					

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学方法論Ⅲ	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	2 学年 前期～後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 対象の治療・処置に必要な診療の基本的な援助技術を習得する。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象にとっての診察・検査の意義・目的について理解できる。 2. 診察時の介助・対象への援助の方法を理解し、その技術が習得できる。 3. フィジカルアセスメント(身体計測)の方法と技術が習得できる。 4. 主な検査の目的を理解し、検査技術の一つである「静脈血採血」の技術を習得できる。 5. 薬物療法における看護師の役割について理解できる。 6. 薬物の効果を発揮させるための援助の必要性とその援助が理解できる。 7. 経口与薬法と各注射法、その作用機序の相違点について理解できる。 8. 皮下注射・筋肉内注射における援助の基本的技術について理解できる。 					
主題	内容			授業方法	
1. 診察・検査に伴う看護	1) 診察に伴う看護 2) 検査に伴う看護 3) 血液検査 4) 駆血帯の巻き方、静脈の選択、消毒の仕方 5) 静脈血採血の実際(演習)			講義 8 時間 演習 4 時間	
2. 薬物療法と看護	1) 薬物療法とは 2) 薬物療法における看護の役割 3) 経口的与薬法の方法 4) 口腔内・直腸内与薬、塗布・塗擦の方法 5) 直腸内与薬の実際(演習) 6) 注射法の種類 7) 注射部位の基礎知識 8) 注射器具の種類と構造・取り扱い 9) 皮内注射・皮下注射・筋肉注射の方法 10) 皮下・筋肉注射の実際(演習) 11) 静脈内注射の介助方法(演習) 12) 輸血法 13) 注射及び輸血実施時の合併症の看護			講義 10 時間 演習 8 時間	
評価	筆記試験 レポート 提出物 出席状況及び学習態度				
講義	18 時間	演習	12 時間	修了試験	2 時間(その他)

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	基礎看護学方法論IV	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	2 学年 前期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 対象の健康障害に対する生活上の問題を判断し、解決するための基礎的能力を養う。 理論的知識を用いて、科学的根拠に基づいた問題解決的な思考を専門技術として活用する方法を習得する。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の概念、及び、必要性を理解する。 2. 看護過程と看護理論の関係性について理解する。 3. V. ヘンダーソンの看護理論をふまえ、各基本的欲求の充足した状態の概念理解をし、アセスメントツールの活用を通して、看護の視点を持った意図的・系統的な情報収集・情報整理について理解する。 4. 看護理論に基づいた視点で、情報を収集・整理・アセスメントする重要性とその方法について理解する。 5. 全体論的な視点で捉えた対象像(情報関連図による)をふまえ、看護上の問題点を抽出する必要性と、その方法について理解する。 6. 看護計画を立案する必要性と、その方法について理解する。 7. 看護過程における実施の意味、位置づけを理解する。 8. 評価・修正の必要性をその方法について理解する。 9. 看護過程の各プロセスと、その相互作用について理解する 					
主題	内容		授業方法		
1. 看護過程とは	1) 看護過程とは 2) 問題解決思考 3) 看護過程の各プロセス		講義 4 時間		
2. 看護過程展開の各段階とその相互作用	1) 情報収集とは 2) アセスメントとは、充足状態の判断、結論について 3) 全体像の描写～問題点の抽出 4) 看護計画立案～実施 5) 評価 6) 看護診断について		講義 4 時間		
3. 看護過程の実際	事例による看護過程の展開(グループワーク)		演習 20 時間		
評価	筆記試験 レポート 提出物 GW の参加状況 出席状況及び学習態度				
講義	8 時間	演習	20 時間	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門1 基礎看護学 [1] 看護学概論, 医学書院 ・V. ヘンダーソン著 湯楨ます訳: 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第2版, ヌーベル廣川 ・系統看護学講座 専門1 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 					

専門分野 I (基礎看護学)

授業科目	看護研究	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	3 学年 前期～後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 臨地実習において展開した看護を、事例研究としてまとめる過程を通じて、自己の看護観を深めるとともに、研究的態度を身につける。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の学習過程の振り返りの中から、抱いた看護への興味、疑問を看護研究のテーマとして発展させ、研究活動を意図的にかつ計画的に進めることができる。 2. 患者に展開した看護のプロセスを科学的に分析することにより、理論的に研究を進めることができる。 3. 積極的に文献や人的資源を活用して、研究を進めることができる。 4. 論文としてまとめた自己の看護を、他者に伝わりやすいように工夫して発表することができる。 5. 発表会において、互いの研究に興味を持ち、相互に学びを深めることができる。 6. 自己の看護を客観視し、論文としてまとめ発表する過程を通して、自己の看護に対する考えを深めることができる。 7. 看護研究の全過程を通して、看護研究の必要性を理解し、看護を追求する者としての真摯な態度を身につけることができる。 					
主題	内容	授業方法			
1. 研究と実践活動	1) 事例研究とは 2) 体験的症例集積研究 3) 実践の中から発見する研究課題 4) 個の考え方 5) EBN：根拠に基づく看護	講義 2 時間			
2. 研究の種類と特徴	1) 研究デザインはなぜ必要か 2) 研究デザインの種類 3) 質的研究と量的研究 4) 実験研究と準一実験研究 5) 調査方法の種類	講義 2 時間			
3. 事例研究の重要性	1) 看護実践と研究 2) 事例研究の面白さと留意点	講義 2 時間			
4. 事例研究の進め方	1) 課題を見つけ研究テーマを絞り込む 2) 資料を収集する 3) 集めた資料をどう扱うか 4) 研究成果の発表	講義 2 時間			
5. 事例研究の実際	1) 私の行った事例研究 2) 事例研究をめぐるディスカッション	講義 2 時間			
6. 看護研究クリティーク	1) クリティークと何か 2) クリティークするために必要な能力 3) 研究論文をクリティークするときの基準 4) 論文を読み評価するときのステップ	講義 2 時間			
7. 研究における倫理	1) 倫理とは	講義 2 時間			
8. 研究の実際	1) 研究計画書 2) 研究論文	演習 14 時間			
評価	筆記試験 論文作成 発表(評価表による)				
講義	14 時間	演習	14 時間	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献> ・ナースング・グラフィカ⑱ 基礎看護学 看護研究 メディカ出版</p>					

専門分野Ⅱ(成人看護学)

授業科目	成人看護学目的・対象論	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	1 学年 後期	単位数	1 単位 15 時間		
<p><目的> 成人看護の概念、特性を理解し、成人期にある対象の健康や健康問題に対応するための看護の基本的な考え方や方法を学ぶ。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護の概念、特性を理解できる。 2. 成人の発達課題と特徴を理解できる。 3. 成人保健の動向から健康問題について理解できる。 4. 成人看護にまつわる倫理的課題を知り、看護の役割を理解できる。 5. 成人看護学に有効な理論の概略を理解し、成人の理解と看護に有効であることがわかる。 					
主題	内容		授業方法		
1. 成人看護学とは	1)成人とは 2)成人の役割 3)成人の生涯発達に影響を与える要因 成人看護学の特徴と目的		講義 2 時間		
2. 成人期にある対象とその特徴	1)成人看護の対象 2)ライフサイクルからみた成人期 3)成人期の区分と発達課題 4)成人期の身体的特徴 (1)身体に加齢に伴う変化 (2)成人期のセクシャリティ 5)成人期の心理的・社会的特徴 (1)アイデンティティ・自己概念 (2)家族の形成と家族における役割 (3)社会における役割 (4)身体的特徴が精神面に与える影響 (5)社会的特徴が精神面に与える影響		講義 2 時間		
3. 成人保健の動向と成人各期の健康問題	1)健康指標からみた成人の特徴 (1)人口の動向 (2)死亡と死因 (3)疾病構造と受療の動向 2)生活からみた成人の特徴 (1)世帯構成 (2)仕事と職業 (3)経済生活 (4)生活環境 3)成人各期の健康問題 (1)青年期の特徴と健康問題 (2)壮年期の特徴と健康問題 (3)向老期の特徴と健康問題		講義 2 時間		
4. 成人の健康観と成人看護における倫理	1)成人にとっての健康 (1)主観的健康 (2)ノーマライゼーション (3)クオリティ・オブ・ライフ (4)健康観に影響を及ぼす要因 2)成人看護にまつわる倫理的課題		講義 4 時間		
5. 成人看護学における看護理論の応用	1)ストレス・コーピング理論 2)危機理論 3)セルフケア理論 成人教育学		講義 4 時間		
評価	筆記試験 レポート 出席状況及び学習態度				
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門 5 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会 ・ナーシンググラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 					

専門分野Ⅱ(成人看護学)

授業科目	成人看護学方法論Ⅰ 健康期にある成人の看護	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	1 学年 後期	単位数	1 単位 15 時間		
<p><目的> 成人に特有な健康問題の特徴を理解し、健康の保持増進、疾病の予防に向けた看護方法を学ぶ。 セルフマネジメントの基本的な考え方を理解し、慢性疾患をもち生活する成人への支援方法を学ぶ。</p> <p><目標> 1. 成人期の保健予防活動を理解できる。 2. 成人の健康に影響する要因と健康問題を理解し、健康生活を育む活動を理解できる。 3. セルフマネジメントについて理解し、それを支える諸理論の概要が理解できる。 4. セルフマネジメントを支援する看護方法を学ぶ。</p>					
主題	内容			授業方法	
1. 成人期の保健予防活動	1) 成人の健康とは 2) 疾病の予防 3) ヘルスプロモーション (1) 施策の変遷と対応 4) 成人への健康教育			講義 2 時間	
2. 成人の健康に影響する要因と健康問題	1) 労働と成人の健康生活 2) 労働者に対する保健活動 (1) 職場における健康診断 3) 職業性疾病の予防と対応 (1) 労働衛生対策の基本 (2) 職場の環境要因と健康問題 (3) トータル・ヘルス・プロモーション・プランと産業保健 (4) ストレス関連疾患と予防と対応 4) 生活習慣と成人の健康生活 (1) 健康と運動 (2) 健康と栄養 (3) 健康とたばこ (4) 健康とアルコール (5) 健康と休養・ストレス 5) 生活習慣・ストレスに関連する健康障害 6) 主な生活習慣病・ストレス病対応			講義 6 時間	
3. セルフマネジメント	1) セルフマネジメント支援の理論と実践 (1) セルフマネジメントとは (2) エンパワメントアプローチ (3) 自己効力理論 (4) セルフマネジメント教育 2) 健康教育の具体的方法			講義 6 時間	
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
<p><テキスト・参考文献> ・系統看護学講座 専門5 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 ・ナーシンググラフィカ 25 セルフマネジメント メディカ出版 ・国民衛生の動向 厚生労働統計協会 ・生活習慣病のしおり 社会保険出版社</p>					

専門分野Ⅱ(成人看護学)

授業科目	成人看護学方法論Ⅱ 急性期にある成人の看護		講師	看護師として実務経験あり	
開講時期	2 学年 前期・後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> 急性の経過をたどる成人の特徴を理解し、健康危機状況に応じた看護方法を学ぶ。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期にある成人の特徴を理解できる。 2. 周手術期における看護の役割を理解できる。 3. 主な手術を受けた成人への看護を理解できる。 4. 生命危機状況にある成人の特徴を理解できる。 5. 生命危機状況にある成人への看護を理解できる。 6. 循環機能障害を持つ成人の特徴を理解できる。 7. 循環機能障害を持つ成人への看護を理解できる。 					
主題	内容			授業方法	
1. 周手術期にある成人の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 周手術期看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 手術を受ける患者の特徴 (2) 周手術期における看護の役割 2) 手術前の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 術前の評価 (2) 手術前の不安に対する援助 (3) 全身状態の調整 (4) 手術前オリエンテーション (5) 家族への支援 (6) 手術直前の看護 3) 手術中の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 手術室看護の役割 (2) 手術中の看護 4) 手術後の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 手術直後の看護 (2) 術後合併症予防 (3) 疼痛の管理 (4) 早期離床の推進 (5) 日常生活援助 (6) 心理的支援 (7) 退院指導 (8) 家族への援助 5) 感染予防とその対策 			講義 10 時間	
2. 主な手術を受けた成人の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 開腹術を受けた成人の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 消化・吸収機能障害を持つ成人の特徴 (2) 開腹術と看護の要点 (3) 胃切除術を受けた成人の看護 2) 鏡視下手術患者の看護 3) 開頭術を受けた成人の看護 			講義 6 時間	
3. 生命危機状況にある成人の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 救急救命看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) クリティカルケア (2) クリティカルケアにおける看護の役割 2) 生命危機状況にある成人の身体的特徴と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 呼吸・循環の停止 (2) 意識障害 (3) ショック (4) 臓器の機能不全 3) 生命危機状況にある成人の心理社会的特徴と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 心理的危機対処プロセスと危機介入 4) 患者家族の特徴と看護 			講義 6 時間	
4. 循環機能障害を持つ成人の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 循環機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 循環機能障害の症状に対する看護 (2) 循環器系検査と看護 2) 循環機能障害を持つ成人の心理社会的特徴と看護 3) 循環機能障害を持つ成人の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 急性心筋梗塞患者の看護 (2) 心臓リハビリテーション 			講義 6 時間	
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 別巻2 臨床外科看護各論 医学書院 ・系統看護学講座 専門15 成人看護学 [11] 感染症 医学書院 ・高齢者と成人の周手術期看護 2 術中／術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 ・高齢者と成人の周手術期看護 3 開腹術／腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 医歯薬出版 ・系統看護学講座 専門9 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・系統看護学講座 別巻4 救急看護学 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 ・系統看護学講座 専門7 成人看護学 [3] 循環器 医学書院 ・看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 急性・クリティカルケア看護 メヂカルフレンド社 ・ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周手術期看護 メディカ出版 ・周術期看護 安全・安楽な看護の実践 インターメディア ・成人看護学 周手術期看護論 ヌーベルヒロカワ 					

専門分野Ⅱ (成人看護学)

授業科目	成人看護学方法論Ⅲ 慢性期にある成人の看護	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	2 学年 前期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 慢性の経過をたどる成人の特徴を理解し、セルフケア能力や QOL の向上を目指した看護方法を学ぶ。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康障害を持つ成人期にある対象が理解できる。 2. 糖代謝障害を持つ成人の特徴を理解できる。 3. 糖代謝障害を持つ成人への看護を理解できる。 4. 呼吸機能障害を持つ成人の特徴を理解できる。 5. 呼吸機能障害を持つ成人への看護を理解できる。 6. 肝機能障害を持つ成人の特徴を理解できる。 7. 肝機能障害を持つ成人への看護を理解できる。 8. 腎機能障害を持つ成人の特徴を理解できる。 9. 腎機能障害を持つ成人への看護を理解できる。 10. 身体防御機能障害を持つ患者の看護 (HIV/AIDS 患者の看護) 					
主題	時間			内容	
1. 慢性期にある患者の看護	1) 慢性的な健康状態の揺らぎを持つ患者の理解 (1) 慢性病患者の経験する無力感 (2) 病みの軌跡と看護			講義 2 時間	
2. 糖代謝機能障害を持つ成人の看護	1) 糖代謝機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 2) 糖代謝機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護 3) 糖代謝機能障害を持つ成人の看護 (1) 糖代謝機能障害患者の看護			講義 6 時間	
3. 呼吸機能障害を持つ成人の看護	1) 呼吸器のフィジカルアセスメント 2) 呼吸機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 (1) 呼吸機能障害の症状アセスメントと看護 (2) 呼吸器系検査と看護 3) 呼吸機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護 4) 呼吸機能障害を持つ成人の看護 (1) COPD 患者の看護 (2) 慢性呼吸不全患者の看護			講義 6 時間	
4. 肝機能障害を持つ成人の看護	1) 肝機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 (1) 肝機能障害の症状に対する看護 (2) 肝機能検査と看護 2) 肝機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護 3) 肝機能障害を持つ成人の看護 (1) 肝炎患者の看護 (2) 肝硬変患者の看護			講義 6 時間	
5. 腎機能障害を持つ成人の看護	1) 腎機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 (1) 腎機能障害の症状に対する看護 (2) 腎機能検査と看護 2) 腎機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護 3) 腎機能障害を持つ成人の看護 (1) 腎庇護のための生活指導 (2) 慢性腎不全患者の看護			講義 6 時間	
6. 身体防御機能障害を持つ患者の看護 (HIV/AIDS 患者の看護)	1) 身体防御機能障害を持つ成人の身体的特徴と看護 (1) 身体防御機能障害の症状に対する看護 (2) 抗 HIV 療法 2) 身体防御機能障害を持つ成人の心理・社会的特徴と看護 3) ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 感染症の病期に応じた援助			講義 2 時間	
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシンググラフィカ 25 セルフマネジメント メディカ出版 ・系統看護学講座 専門 5 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 ・系統看護学講座 専門 6 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ・系統看護学講座 専門 10 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 ・系統看護学講座 専門 9 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・系統看護学講座 専門 12 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 ・系統看護学講座 専門 11 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 医学書院 ・看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 慢性看護 メヂカルフレンド社 					

専門分野Ⅱ(成人看護学)

授業科目	成人看護学方法論Ⅳ 回復期にある成人の看護 がん患者の看護 終末期にある人の看護	講師	看護師として実務経験あり がん性疼痛看護認定看護師 実務経験あり(がん患者の看護、終末期の看護)		
開講時期	2 学年 後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回復の経過をたどる成人の特徴を理解し、障害への適応と社会復帰への看護方法を学ぶ。 2. リハビリテーション看護の概念を理解し、その人らしい生活の再構築を支援していくことを学ぶ。 3. がん患者とその家族を理解し、がんとともにその人らしく人生を過ごすための看護方法を学ぶ。 4. 終末期の経過をたどる患者とその家族を理解し、全人的苦痛を緩和し、患者・家族のQOL向上のための看護方法を学ぶ。 <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション看護の定義・役割・看護援助の実際が理解できる。 2. 身体の一部を喪失した成人の特徴を理解できる。 3. 身体の一部を喪失した成人への看護を理解できる。 4. がん患者とその家族の特徴を理解できる。 5. がん患者への看護を理解できる。 6. 終末期にある患者とその家族の特徴を理解できる。 7. 終末期にある患者とその家族への看護を理解できる。 					
主題	内容	授業方法			
1. 身体の一部を喪失した成人の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーション看護とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害とは (2) リハビリテーション看護の役割 2) 運動機能障害を持つ成人の身体的・心理的・社会的特徴と看護 3) 運動機能障害を持つ成人の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 脊髄損傷患者の看護 4) 身体の一部を喪失した成人の身体的特徴と看護 5) 身体の一部を喪失した成人の心理・社会的特徴と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 障害受容への援助 (2) 障害の改善と克服への援助 	講義 4 時間			
	<ol style="list-style-type: none"> 1) 大腸切除およびストーマ造設に伴う成人の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人工肛門造設術を受けた成人の看護 (2) 演習※ストーマサイトマーキング ストーマセルフケア 2) 術後合併症の予防と回復への援助 	講義 6 時間			
2. がん患者の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) がんを取り巻く現況 <ol style="list-style-type: none"> (1) がん疫学データの動向 (2) がんサバイバーシップケア (3) がんリハビリテーション 2) がん患者の理解 3) がん治療における看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 化学療法の患者への看護 (2) 放射線療法の患者への看護 3) がんに伴う苦痛と看護師の役割 <ol style="list-style-type: none"> (1) 疼痛 (2) 心理・社会的苦痛 	講義 6 時間			
	<ol style="list-style-type: none"> 4) 主ながん患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 肺がん患者の看護 (2) 性・生殖器疾患患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん、子宮がん ・前立腺がん 	講義 4 時間			
3. 終末期にある人の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1) 終末期看護の概念 <ol style="list-style-type: none"> (1) 死の概念 (2) 終末期にある対象の療養の場 2) 終末期にある対象の特徴と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 身体的変化と症状マネジメント (2) 心理的な特徴とケア (3) 社会的な特徴とケア (4) スピリチュアルケア (5) 死の準備教育 3) 終末期にある対象の家族の特徴と看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 悲嘆のプロセス (2) 看取りをする家族への支援 (3) 遺族ケア 4) 緩和ケアチームアプローチ 	講義 8 時間			
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門 5 成人看護学 [1] 成人看護学総論 医学書院 ・系統看護学講座 専門 9 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・系統看護学講座 専門 14 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 ・系統看護学講座 専門 11 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 ・系統看護学講座 専門 13 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 ・系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 ・成人看護学 E がん患者の看護 廣川書店 ・系統看護学講座 別巻 10 緩和ケア 医学書院 					

専門分野Ⅱ(成人看護学)

授業科目	成人看護学演習Ⅰ		講師	看護師として実務経験あり 糖尿病認定看護師 実務経験あり	
開講時期	2 学年 前期		単位数	1 単位 15 時間	
<p><目的> 成人慢性期患者の看護過程展開の方法を学び、看護を实践できる基礎的能力を習得する。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 紙上事例を通して、看護過程の展開方法がわかる。 紙上事例を通して、成人期・慢性期の特徴をふまえた看護過程の展開がわかる。 紙上事例を通して、成人を対象とした個別指導技術を学ぶ。 					
主題		内容		授業方法	
1. 慢性期演習		1) 事例による成人慢性期患者の看護過程展開の実際 2) 個別指導技術 (1) 指導計画の立案と指導教材の作成 (2) ロールプレイング		演習 14 時間	
評価		演習記録 演習態度 出席状況			
講義	なし	演習	14 時間	修了試験	1 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門10 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 ・系統看護学講座 専門2 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 [2] 医学書院 ・看護過程をつかったヘンダーソン看護論の実践 ヌーベルヒロカワ ・ナーシンググラフィカ 25 セルフマネジメント メディカ出版 ・看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 慢性看護 メヂカルフレンド社 					

専門分野Ⅱ(成人看護学)

授業科目	成人看護学演習Ⅱ		講師	看護師として実務経験あり	
開講時期	2 学年 後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 急性期にある成人の看護過程展開の方法を学び、看護を実践できる基礎的能力を習得する。 健康障害をもつ成人の事例患者に適応される、看護の問題解決の思考過程および看護技術を、患者体験を含めて習得する。 <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 紙上事例を通して、周手術期にある成人の看護過程を展開し、術後の回復過程がわかる。 紙上事例を通して、術後の看護計画を立案し、事例の模擬患者に必要な看護実践ができる。 周手術期にある対象に対して、適切な臨床判断を行う為の基盤となるフィジカルイグザミネーション技術を身につける。 習得した援助技術を用いて事例の状況に的確な看護実践ができる。 グループワークを通して、自身や他者の行った周手術期患者への援助を振り返り、援助の良い点や改善点を検討することができる。 					
主題	内容			授業方法	
1. 技術演習	<ol style="list-style-type: none"> クリティカル領域における身体理解と判断力の重要性 <ol style="list-style-type: none"> フィジカルアセスメントの目的と意義 クリティカルケアを必要とする患者のフィジカルアセスメントの視点 フィジカルイグザミネーションの実際 成人期にある事例患者への援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 観察とアセスメント 看護計画の立案 看護の実際 心肺蘇生法 <ol style="list-style-type: none"> BLS (AED 含む) の実際 ACLS の理解 			演習 16 時間	
2. 急性期演習	<ol style="list-style-type: none"> 事例による周手術期患者の看護過程展開の実際 <ol style="list-style-type: none"> 観察とアセスメント 周手術期の主な看護技術 看護計画の立案 看護の実際 			演習 14 時間	
評価	演習記録 演習態度 実技 プレゼンテーション技術				
講義	なし	演習	30 時間	修了試験	提出物
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 ・系統看護学講座 別巻2 臨床外科看護各論 医学書院 ・系統看護学講座 専門15 成人看護学 [11] 感染症 医学書院 ・周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版 ・系統看護学講座 専門9 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・系統看護学講座 専門2 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学 [2] 医学書院 ・系統看護学講座 専門3 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学 [3] 医学書院 ・系統看護学講座 専門6 成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 ・系統看護学講座 別巻4 救急看護学 医学書院 ・看護実践のための根拠がわかる成人看護技術 急性・クリティカルケア看護 メヂカルフレンド社 					

専門分野Ⅱ(老年看護学)

授業科目	老年看護学 目的論	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	1 学年次 後期 15	単位数	1 単位 15 時間		
<p><目的> 老年看護学目的論では、高齢者を生物学的、社会的な変化の中でとらえ、老いて生きる人々の生活とそれを取りまく社会の視点で高齢者の多様性を理解する。また、ライフサイクルのなかで老年期をとらえ、高齢者の特徴とその健康生活を理解し、高齢者を対象とする看護観を育む。</p> <p><目標> 1. 老年看護の概念を理解する。 2. 多様な生活の場で生活する高齢者を理解する。 3. 高齢者を取りまく保健・医療・福祉動向を理解する。 4. 老年看護における倫理的な問題を理解する</p>					
主題	内容			授業方法	
1. 老年看護の変遷	1) 高齢者に関する保健医療福祉の変遷・概念 (1) 人口学的指標からの老年期の理解 (2) 生活の視点からの老年期の理解 (3) 生活史・生活習慣・生活様式 2) 老年看護の役割と機能 3) 老年看護学と他の学問領域との関連			講義 2 時間	
2. 高齢者の理解の基本となる概念	1) 老年期と発達と変化 (1) ライフサイクルからみた高齢者 (2) 加齢と老化 (3) 発達課題 2) 高齢者の生活の質(価値観含む)の保証 3) 加齢への適応 1) 喪失体験と獲得体験 4) サクセスフルエイジング・スピリチャリティー			講義 2 時間	
3. 老年看護の特徴	1) 安全・安楽な生活援助 2) チームアプローチ(多職種連携) 3) 地域包括ケアシステム 4) 家族との協働 5) 人生の統合をはかる支援 6) 高齢者に特徴的な災害時の看護			講義 2 時間	
4. 多様な生活の場で生活する高齢者の理解	1) 高齢者の暮らしの特徴・関連する医療福祉制度 (1) 医療施設の種類と特徴 (2) 介護保険施設等の種類と特徴 (3) 医療保険制度・介護保険制度 (4) 地域密着型・居宅サービスの種類と特徴 (5) 生活の場の移動と看護の継続(退院支援・退所支援) (6) 多職種連携・チームアプローチ(看護と介護の協同含) (7) 福祉用具・介護用品の活用(安全で有効な活用支援)			講義 4 時間	
5. 老年看護の倫理	1) 高齢者差別の防止 (1) 高齢者の尊厳と権利擁護(アドボカシー) (2) ノーマライゼーション (3) 意思決定・自立支援とエンパワメント 2) 老年看護の倫理的課題 (1) 安全の確保(虐待・身体拘束) (2) 高齢者の人権に関する制度(成年後見制度)			講義 4 時間	
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
<p><テキスト・参考文献> ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院 ・国民衛生の動向 財団法人厚生統計協会</p>					

専門分野Ⅱ(老年看護学)

授業科目	老年看護学 対象論	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	1 学年次 後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 老年看護学対象論では、高齢者の個人差や多様な価値観・健康障害が、長い生活暦によって培われている特徴を明らかにし、現代社会情勢を踏まえた上で、生活者である個々の高齢者にとっての安寧な状況や自律とは何かについて考え、高齢者の健康段階に応じた看護の特徴を理解する。</p> <p><目標> 1. 加齢に伴う諸機能の変化を理解する。 2. 高齢者の生活と健康障害の特徴を理解する。 3. 治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護を理解する。 4. 認知症の高齢者・家族が理解できる 5. 高齢者の健康段階に応じた看護の特徴を理解する。</p>					
主題	内容		授業方法		
1. 加齢に伴う変化	1)加齢に伴う変化の特徴 (1)身体的機能の変化 (2)精神的機能の変化 (3)社会的機能の変化 2)高齢者体験		講義 8 時間 演習 2 時間		
2. 高齢者の健康と疾病	1) 高齢者の健康の特徴 (1) 老年期の健康のとらえ方 (2) 生活習慣と健康 (3) 生きがいと生活の満足感 2) 高齢者の疾病の特徴(老年症候群含む) (1) 老年期に特徴的な疾病構造 (2) 高齢者の疾病をめぐる特 (3) 健康障害が及ぼす高齢者とその家族への影響		講義 4 時間		
3. 治療・介護を必要とする高齢者の家族の看護	1) 高齢者の家族の健康と生活への影響 (1) 看護の対象としての家族 (2) 介護者の健康 (3) 介護者の社会生活 2) 家族全体への影響と介護への適応 (1) 家族システムのアセスメント (2) 家族の発達課題とニーズの競合 (3) 介護状況と介護力評価、介護適応のための援助		講義 2 時間		
4. 認知症の高齢者・家族の理解	1) 認知症サポーター養成講座受講		講義 4 時間		
5. 高齢者の健康段階に応じた看護	1) 急性期にある高齢者の看護(手術療法・せん妄を含む) 2) 慢性期にある高齢者の看護(薬物療法を含む) 3) 回復期・リハビリテーション期にある高齢者の看護(廃用症候群予防・転倒予防を含む) 4) エンド・オブ・ライフ・ケア(家族参加・グリーフケア)		講義 8 時間		
評価	筆記試験 レポート 出席状況及び学習態度				
講義	26 時間	演習	2 時間	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献> ・ 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・ 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院</p>					

専門分野Ⅱ(老年看護学)

授業科目	老年看護学 方法論	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	2 学年次 前期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 老年看護学方法論では高齢者の加齢・健康障害を踏まえ、自律に視点をおいた看護を提供する為に、看護師としての役割を果たす上で必要な基本的な方法とそれを支える概念や根拠に関する知識を得る。</p> <p><目標> 1. 高齢者の健康生活を支える看護の方法を理解する。 2. 高齢者に特徴的な障害・疾病に応じた看護の方法を理解する。</p>					
主題	内容	授業方法			
1. 高齢者の健康を支える看護	1) 高齢者のフィジカルアセスメント (1) フィジカルアセスメントの方法・留意点 (2) 高齢者の機能と評価 2) 高齢者のコミュニケーション (1) 高齢者のコミュニケーション能力 (2) コミュニケーションを促す要素と阻害要因 (3) 高齢者とのコミュニケーション方法	講義 4 時間			
	1) 高齢者の健康生活維持のための看護*各項目アセスメント (1) 食生活と栄養(低栄養含む) ①食生活の状況 ②嚥下機能(摂食・嚥下障害含む)・嗜好性・環境に応じた食生活の援助 (2) 排泄の状況、排泄能力の変化に応じた援助 (3) 運動と休息、生活のリズムと調整(睡眠障害含む) (4) 清潔、身だしなみ、衣生活 (5) 社会参加の状況と参加への援助 (6) セクシュアリティへの援助	講義 4 時間			
2. 健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護	1) 高齢者の受療状態に応じた看護 (1) 外来受診、入院時、退院時の看護 (2) 検査を受ける高齢者の看護 (3) 健康維持・増進に向けた看護(フレイル・介護予防含む)	講義 2 時間			
3. 高齢者の特有な症候・疾患・障害と看護	2) 加齢に伴う高齢者のおこりやすい主要な症状と看護 (1) 感染症・発熱 (2) 脱水症 (3) 痛み・かゆみ(皮膚の障害含む) (4) 失禁および便秘下痢	講義 6 時間			
	1) 機能障害をもつ高齢者の特徴と看護 (1) 循環・呼吸機能障害をもつ高齢者の看護 ①循環器疾患(虚血性心疾患・心不全) ②呼吸器疾患(誤嚥性肺炎・COPD) (2) 運動機能障害をもつ高齢者の看護 ①整形外科(骨粗しょう症・大腿骨頸部骨折・変形性膝・股関節症) ②脳血管障害(脳梗塞・脳出血・パーキンソン病) (3) 認知機能障害をもつ高齢者の看護 ①認知症 ②うつ病 (4) 感覚機能障害のある高齢者の看護 (5) 老人性難聴・白内障	講義 12 時間			
評価	筆記試験 レポート 出席状況及び学習態度				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献> ・ 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・ 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院</p>					

専門科目Ⅱ(老年看護学)

授業科目	老年看護学 演習	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	2 学年次 前期・後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 老年看護学演習では、老年看護学目的論・対象論・方法論で学んだ知識を統合させ、具体的な事例に基づいて演習を展開し、基本的な老年看護技術の習得を目指す。高齢者に多い疾患および複数の障害をもつことをイメージできるように、これからの高齢社会に伴い直面する看護問題を捉えられる能力を習得する。</p> <p><目標> 1. 高齢者への日常生活援助技術を習得する。 2. 事例を通して健康障害をもつ高齢者を統合的に理解し、対象に必要な看護について理解を深める。</p>					
主題	内容	授業方法			
1. 高齢者への日常生活援助技術	1) 食事への援助 (1)嚥下体操、アイスマッサージ (2)誤嚥予防の食事	演習 2 時間			
	2) 排泄への援助 (1)おむつ交換の実際 (2)排泄の自立にむけた援助	演習 4 時間			
	3) 移動への援助 (1)麻痺のある人の移動の実際 ①杖歩行 ②車椅子移乗(トイレ移乗) (2)転倒・転落予防について	演習 2 時間			
	4) レクリエーションへの援助 (1)レクリエーションの企画・運営 (2)臨地実習での学び * 老年臨地実習Ⅰで実施	演習 2 時間			
2. 看護過程の展開	1) 健康障害をもつ高齢者への看護過程の展開	演習 16 時間			
	健康な生活のための指導案の立案と実際	演習 4 時間			
評価	演習 レポート 提出物の内容 出席状況及び学習態度				
講義	なし	演習	30 時間	修了試験	提出物
<p><テキスト・参考文献> ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院 ・根拠がわかる老年看護技術 メヂカルフレンド社</p>					

専門分野Ⅱ(小児看護学)

授業科目	小児看護学目的・対象論	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	2 学年 前期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 小児看護の対象となる子どもの特徴と成長発達を理解し、看護の機能と役割を学ぶ。</p> <p><目標> ①新生児期から思春期にある子どもとその家族の特徴を理解し、子どもの成長・発達に応じた援助を考え、主に健康な子どもとその家族へ看護を提供するために必要な基礎的な知識・技術・態度を養う。 ②社会情勢や母子保健の動向を捉えた小児保健について学ぶことで、成長発達段階に応じた子どもの特徴を理解するための基本的知識を培う。 ③子どもの権利について理解を深め、子どもの成長発達過程における“あそび”の意義とその重要性について考え、個々の倫理観に基づいた子ども観を明確にする。</p>					
主題		内容		授業方法	
1. 子どもとは 2. 小児看護学とは 3. 子どもの倫理と権利		小児看護学 導入 子どもと子どもを取り巻く環境 家族の特徴とアセスメント 小児看護の目的・目標、小児看護の特質 小児看護の変遷、小児看護の課題 小児看護における倫理と子どもの権利		講義 6 時間	
4. 成長・発達評価 5. 法律・保健統計 6. 予防接種 7. 栄養		子どもをめぐる法律と政策、小児保健統計 学校保健、予防接種 成長・発達評価の方法 1 成長・発達評価の方法 2 子どもの成長発達と子どもの栄養		講義 10 時間	
8. 小児各期の特徴 9. 子どもの生活と発達保障		新生児期・乳児期の成長と発達 新生児期・乳児期の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護 幼児期の成長と発達 幼児期の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護 学童期・思春期の成長と発達、学童期・思春期の発達段階に応じた世話と健康増進のための看護		講義 10 時間	
10. 子どもとあそび		子どもとあそび、あそびの発達と社会性 各発達段階における子どものあそびの特徴		講義 2 時間	
評価		筆記試験 出席状況及び学習態度			
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献> ・小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 ・小児看護学 日総研 他</p>					

専門分野Ⅱ(小児看護学)

授業科目	小児看護学方法論 I	講師	医師として実務経験あり		
開講時期	2 学年 前期	単位数	1 単位 15 時間		
<p><目的> 小児期に特有な疾患の診断、症状、治療処置、検査について学ぶ。</p> <p><目標> 小児期に特有な健康障害を理解する。</p>					
主題	内容				授業方法
1. 小児期にみられる 主な健康障害	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出生前疾患、新生児の疾患、遺伝疾患、染色体異常 2. 低出生体重児の疾患 成熟異常、高ビリルビン血症、呼吸窮迫症候群 3. 呼吸器、循環器疾患 肺炎、先天性心疾患、川崎病 4. 内分泌、代謝異常、免疫・アレルギー疾患 若年性糖尿病、気管支喘息、食物アレルギー・アトピー性皮膚炎、アレルギー性紫斑病 他 5. 感染症 ウイルス感染症、細菌感染症 6. 血液疾患、悪性新生物 血友病、白血病、脳腫瘍、神経芽腫、小児の固形腫瘍、紫斑病 他 7. 栄養障害、消化器疾患 乳児下痢症、ソケイヘルニア、ヒルシュスプルング病、腸重責症、食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症 他 8. 腎・泌尿器疾患 急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群 他 9. 神経疾患 熱性痙攣、てんかん、急性脳症、筋ジストロフィー、水痘症、二分脊椎、髄膜瘤 他 10. 運動器疾患 先天性股関節脱臼 他 11. 精神疾患 AD・HD、自閉症、チック、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、摂食障害 他 				講義 14 時間
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
<p><テキスト・参考文献> ・小児臨床看護学各論(医学書院)</p>					

専門分野Ⅱ(小児看護学)

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	講師	看護師として実務経験あり (小児科勤務)		
開講時期	2 学年 後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 小児看護に必要な子どもの日常生活援助の理解を深め、小児看護特有の考え方・援助と、特殊な状況にある子どもに必要な精神的ケアなどについて学習することで、疾患や子どもの置かれている状況が、子どもと家族に及ぼす影響がわかり、看護の果たす役割について考えることができる。</p> <p><目標> 1. 小児看護に必要な子どもの日常生活援助がわかる。 2. 子どもの健康障害の特徴を理解する。 3. 疾患が子どもやその家族に与える影響がわかる。 4. 子どもの継続看護について理解する。 5. 特殊な状態にある子どもの看護について理解する。 6. 症状をもつ子どもの看護について理解する。 7. 子どもの疾患レベルに応じた看護の方法について理解する</p>					
主題	内容	授業方法			
1. 基本的な生活援助	1. 小児看護に必要な子どもの基本的な生活援助 子どもの日常生活援助 2. 小児看護に必要な子どもの基本的な生活援助 疾患を持つ子どもの日常生活援助	講義・演習 4 時間			
2. 小児看護で考える虐待・自殺	3. 小児看護で考える虐待・子どもの自殺 子どもの虐待と看護、子どもの自殺 リスク要因と発生予防、求められるケア	講義 2 時間			
3. 健康障害に伴い、特殊な状況にある子どもと家族に必要な精神的・身体的・社会的ケアと生活援助	4. 疾患の受容プロセスにおける小児と家族への看護 5. 周手術期の子どもと家族の看護 (口唇・口蓋裂、アデノイド、ヘルニアなど) 6. 外来における子どもと家族の看護 子どもを対象とする外来の特徴 外来でのトリアージについて 7. 急性期にある子どもと家族の看護 (小児救急、蘇生時の看護を含む) 8. 入院中の子どもと家族の看護 9. 慢性期にある子どもと家族の看護 (喘息、糖尿病、ネフローゼ症候群、川崎病) 10. 予後不良な子どもと家族の看護 (白血病など子どものがん) 11. 終末期にある子どもと家族の看護 12. 子どもを亡くした家族への看護、グリーフケア 13. 在宅療養中の子どもと家族の看護 (重症心身障害児など日常生活で医療的置を必要とする子どもと家族への支援)	講義 12 時間			
4. 健康障害に伴う症状を示す子どもの看護	14. 災害時の子どもと家族の看護 15. 疾患を持つ子どもの看護 事例を通して考える小児看護 ①	講義 4 時間			
5. 疾患を持つ子どもの看護	16. 疾患を持つ子どもの看護 事例を通して考える小児看護 ② 17. 疾患を持つ子どもの看護 事例を通して考える小児看護 ③	講義 4 時間			
6. 疾患の治療に伴う特殊な状況にある子どもの看護	19. 検査・処置を受ける子どもの看護 20. プレパレーションとディストラクション ・アミズムを取り入れた援助技術 子どもの権利を尊重し、理解と納得を支える関わり	講義 2 時間			
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	26 時間	演習	2 時間	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献> ・系統看護学講座 小児看護学①(小児看護学概論・小児臨床看護総論) ・系統看護学講座 小児看護学②(小児臨床看護各論) ・日総研 小児看護学 第7版 ・文光堂 小児の生活援助 ・メヂカルフレンド社 小児看護技術</p>					

専門分野Ⅱ(小児看護学)

授業科目	小児看護学演習	講師	看護師として実務経験あり		
開講時期	2 学年 前期～後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 健康障害のある小児の看護に必要な技術と問題解決思考に基づいた看護過程の展開を習得し、それを実践できる基礎的能力を培う。</p> <p><目標> 1. 小児看護に必要な基礎的看護技術を習得する。 2. 健康障害をもつ小児の看護過程について理解する。 3. 子どもにとって”遊び”が生活そのものであるということの理解を深めることができる。</p>					
主題	内容	授業方法			
子どもの日常生活援助技術と発達段階を考えた”遊び”	【日常生活援助技術】 ①食事 ②排泄 ③衣生活 ④手洗い ⑤歯みがきの実際 … 演習	演習 2 時間			
	「子どもと遊び」 作成したオモチャの発表会…詳細は別紙、実施要領参照のこと	発表 4 時間			
小児看護に必要な特殊な看護技術	1. 子どものフィジカルアセスメントと子どもの救急蘇生の実際 2. プレパレーションとディストラクションの実際	演習 8 時間			
ペーパーペイシェントによる小児の看護過程の展開	【小児看護学・看護過程の展開】 *詳細は実施要領配布のこと	講義 16 時間 GW発表講評及び解説			
評価	演習 看護過程記録				
講義	16 時間	演習	14 時間	修了試験	提出物・実技
<p><テキスト・参考文献> 小児看護学概論・小児看護学臨床総論、小児臨床看護学各論(医学書院)、 小児看護第7版(日総研)、小児看護実習ガイド(照林社)、 看護実践のための根拠がわかる小児看護技術(メヂカルフレンド社)、 子どものフィジカルアセスメント(金原出版)、 写真でわかる小児看護技術(インターメディカ)</p>					

専門分野Ⅱ(母性看護学)

授業科目	母性看護学目的・対象論	講師	助産師として実務経験あり
講時期	2 学年 前期	単位数	1 単位 30 時間

<目的>

1. 母性の理念を理解し、母性看護の意義・役割を学ぶ。
2. 母性看護の対象の各ライフステージの特徴を理解し、対象がおかれている環境および対象の健康に影響を及ぼす因子を考えることができる。

<目標>

1. 母性の理念を理解できる。
2. 母性看護の目的および概念を理解できる。
3. 母性保健活動の多様性とその変遷を理解できる。
4. 生と性に関する倫理上の問題や権利を考える。
5. 女性のライフサイクルにおける看護の役割を理解できる。
6. 周産期にある対象の身体的、心理的、社会的特徴を理解できる。

主題	内容	授業方法			
1. 母性の概念 2. 母性看護の目的	1. 母性の概念と母性看護の意義と役割 1) 母性とは 2) 母性看護の目的・役割 3) 母性看護の対象	講義 2 時間			
1. 母子保健統計 2. 母子保健に関係する法規・政策	1. 母子保健統計 1) 周産期の統計 2) 統計から見た母性看護の課題 2. 母子保健施策 1) 母子保健法 2) 母体保護法 3) 健やか親子 21 および子育て支援施策 4) 働く女性と社会環境	講義 4 時間			
1. リプロダクティブヘルス・ライツの現状と日本の取り組み	1. リプロダクティブヘルス・ライツの概要 2. 日本の現状と取り組み	講義 2 時間			
1. 女性のライフサイクルとセクシヤリティ	1. 女性のライフサイクルと母性 1) 思春期女性の健康問題 (1) 成長加速現象 (2) 性周期 (3) 思春期のリプロヘルス (4) 思春期の保健 (健やか親子 21 と思春期) 2) 成熟期の女性の健康問題 (1) 不妊症 ・ 不妊症の女性と現状 ・ 女性・家族ケア (2) 遺伝疾患・出生前診断 (3) 労働と女性の健康、働き続けること(ワークライフバランス) 3) 更年期と更年期障害 (1) 更年期障害の症状と対処 (2) 更年期障害への看護と保健指導 4) 老年期の女性の健康問題	講義 10 時間			
1. 女性を取り巻く問題 2. 母性保健をめぐる問題	1. DV 2. 虐待 3. 少子化問題 4. 生命倫理 5. 母性保健をめぐる問題(グループワーク)	講義 2 時間			
1. 母性看護における看護過程	1. 母性看護領域における看護過程の特徴 2. ウェルネス志向の考え方 3. 母性看護の対象者の特性と看護 4. ウェルネス診断の構成要素 5. 事例展開(説明)	講義 2 時間			
1. 正常な妊娠の生理・看護 1) 妊娠の生理	1. 妊娠の成立 2. 妊娠の生理 1) 妊娠による身体的変化 2) 妊娠による妊婦の心理的变化 3) 妊娠による社会の変化 4) 妊娠による家族の変化 5) 胎児の発育と発達	講義 6 時間			
評価	筆記試験 レポート				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間

<テキスト・参考文献>

- ・母性看護学〔Ⅰ〕概論 有森裕子編著 医師薬出版株式会社
- ・母性看護学〔Ⅱ〕周産期各論 有森裕子編著 医師薬出版株式会社
- ・国民衛生の動向

専門分野Ⅱ(母性看護学)

授業科目	母性看護学方法論Ⅰ		講師	助産師として実務経験あり 医師として実務経験あり	
開講時期	2 学年 前期・後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> 周産期の対象を統合的に理解し、対象に応じたウエルネスの視点に立った看護を行うための知識・技術を学ぶ。</p> <p><目標> 1. 妊娠期にある対象の看護が理解できる 2. 分娩期にある対象および出生直後の新生児の看護が理解できる 3. 妊娠・分娩期の正常からの逸脱に対する治療・看護が理解できる。</p>					
主題	内容			授業方法	
1. 正常な妊娠の生理・看護・妊娠期の看護	1. 妊娠期の看護の役割 1) 妊娠期の看護の目標 2. 妊婦の看護と保健指導 1) 生活の変化への援助 (1) 酸素摂取に対する援助 (2) 栄養に対する援助 (3) 排泄に対する援助 (4) 運動と休息に対する援助 (5) 清潔に対する援助 (6) ホルモンの変化に対する援助 (7) 乳房・乳頭の変化への援助 (8) 妊娠中のマイナートラブルとその援助 2) 心理社会的側面への援助 (1) 母性意識の発達 (2) 父性意識の発達 (3) 母親役割獲得準備期間			講義 6 時間	
1. 妊娠分娩産褥期の異常と看護	1. 異常妊娠の看護 1) 流産の看護 2) 子宮外妊娠の看護 3) 妊娠高血圧症候群(子 痛・HELLP) 4) 前置胎盤 5) 合併症妊娠 その他 2. 分娩期の異常と看護 1) 常位胎盤早期剥離 2) 弛緩出血(産科的ショック・DIC) 3) 胎児機能不全 4) 帝王切開時の看護(深部静脈血栓) 3. 産褥期の異常 1) 産褥熱 2) 産褥期における精神障害			講義 8 時間	
1. 分娩の生理と看護 1) 分娩期の生理 2) 分娩期の看護	1. 分娩の生理 1) 分娩の定義 2) 分娩の 3 要素 3) 分娩の徴候 4) 分娩第 1 期～第 4 期までの経過 5) 胎盤計測 2. 分娩期の看護 1) 分娩第 1 期の看護 2) 分娩第 2 期～3 期の看護 3) 分娩第 4 期の看護			講義 8 時間	
2. 出生直後の新生児の生理と看護 1) 新生児の生理 2) 出生直後の新生児の看護	1. 出生直後の新生児の生理 1) 循環・呼吸の変化と看護 2) 成熟徴候・発達評価・神経学的発達 3) 消化管の発達と看護 4) 腎機能 2. 出生直後の新生児の看護 1) 気道の確保・保温 3. 分娩時外傷 1) 産瘤・頭血腫・帽状腱膜下血腫			講義 6 時間	
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度			2 時間	
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献> ・母性看護学〔Ⅱ〕周産期各論 有森裕子編著 医師薬出版株式会社 ・看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 北川真理子 メジカルフレンド社</p>					

専門分野Ⅱ(母性看護学)

授業科目	母性看護学方法論Ⅱ		講師	助産師として実務経験あり	
開講時期	2 学年 後期		単位数	1 単位 15 時間	
<p><目的> 周産期の対象を統合的に理解し、対象に応じたウエルネスの視点に立った看護を行うための知識・技術を学ぶ。</p> <p><目標> 1. 産褥期にある対象の看護が理解できる 2. 新生児期にある対象の看護が理解できる</p>					
主題		内容		授業方法	
1. 産褥期の身体的変化 2. 産褥期の看護 3. 産褥期の異常の看護		1. 産褥とは 2. 退行性変化 1) 生殖器の復古 2) 全身の復古 3) 性機能の復古 3. 進行性変化 1) 乳汁分泌のメカニズム 2) 乳房の変化 3) 乳房管理 4. 心理社会的変化 1) 母親役割獲得過程 2) 母性の心理社会的変化 ① 身体機能回復および進行性変化への看護 ② 児との関係確立への援助 ③ 育児技術に関わる援助 5. 家族関係構築への看護 1) 産褥熱 2) マタニティーブルー		講義 6 時間	
1. 新生児の看護 1) 出生直後の看護 2) 異常な新生児を持った家族への援助		1. 出生直後の看護 1) 子宮外生活への適応への援助 2) 蘇生法に沿ったルチン看護 3) 早期接触の意義 4) 新生児のアセスメント 2. ハイリスク新生児の援助 1) 低出生体重児 2) 高ビリルビン血症 3) TTN・MAS 他		講義 8 時間	
評価		筆記試験 出席状況及び学習態度			
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
<p><テキスト・参考文献> ・母性看護学〔Ⅱ〕周産期各論 有森裕子編著 医師薬出版株式会社 ・看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 北川真理子 メジカルフレンド社</p>					

専門分野Ⅱ(母性看護学)

授業科目	母性看護学演習		講師	助産師 実務経験あり	
開講時期	2 学年 後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> 妊産褥婦および新生児の看護に必要な基本的看護技術を習得し、母性看護の理解を深める。</p> <p><目標> 1. 母性看護に必要な看護技術を習得し、対象の理解を深める。 2. ウェルネスの視点に立った看護過程が展開できる能力を養う。</p>					
主題		内容		授業方法	
1. 妊娠期の看護に必要な看護技術		1. 乳房・乳頭の観察 2. 妊婦の腹囲・子宮底の測定 3. レオポルド診察法 4. 児心音の聴取 5. 分娩監視装置の装着(デモ)		演習 2 時間	
2. 分娩・産褥期の看護に必要な看護技術		1. 分娩時の呼吸法と補助動作 2. 妊婦シミュレーターによる妊婦模擬体験 3. 褥婦の子宮底の測定 4. 母乳による授乳方法(ポジショニングを重点に)		演習 2 時間	
3. 新生児期の看護に必要な看護技術		1. 児の抱き方、寝かせ方 2. 哺乳瓶による授乳法、排気法 3. 新生児のフィジカルアセスメント(バイタルサイン測定・全身の観察) 4. 沐浴 5. おむつ交換・寝衣の着脱 6. 低出生体重児の看護		演習 6 時間	
4. 看護過程の展開		1. 正常に経過している褥婦と新生児の看護過程の展開		演習 20 時間	
評価		レポート(技術演習・看護過程)参加度 技術テスト: 30 点 看護過程: 70 点			
講義	なし	演習	30 時間	修了試験	実技・提出物
<p><テキスト・参考文献> ・母性看護学〔Ⅱ〕周産期各論 有森裕子編著 医師薬出版株式会社 ・看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 北川真理子 メジカルフレンド社</p>					

専門分野Ⅱ (精神看護学)

授業科目	精神看護学目的・対象論	講師	看護師として実務経験あり (精神科勤務経験あり)		
時期	1 学年 10 月～1 月	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 精神看護学の概念を理解し、こころの健康を維持・増進・回復するために必要な考え方や方法を学ぶ。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. すべての人間のライフサイクルにおける健康と看護の意義について理解する。 2. 人間の健全な精神機構をこころの発達とこころの健康保持・増進、危機への対処まで幅広い対象理解(人間理解)ができる。 3. 学生は個人の成長発達と専門職業人としての自覚や、学習者としての態度を育成し、看護師の役割を理解する。 					
主題	時間数		内容		
1. 精神看護学とは	1. 精神看護の目的と意義 2. 精神看護の位置づけ 3. 精神看護の機能と役割 4. 精神看護の対象		講義 4 時間		
2. こころの健康	1. こころのしくみ 2. こころの健康とは 3. こころの適応と不適応		講義 4 時間		
3. こころの健康意義	1. 危機的状況とこころの働き 2. ライフサイクルとこころの働き 3. 人間関係とこころの働き 4. 環境とこころの働き		講義 4 時間		
4. こころの発達	1. 人格発達 2. 知的な発達・行動発達		講義 2 時間		
5. 精神看護の枠組み	1. 対人関係論 2. コミュニケーション論 3. リエゾン精神看護		講義 14 時間		
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学[1] 精神看護の基礎 ・精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 2019 年 第 5 版第 3 刷 					

専門分野Ⅱ(精神看護学)

授業科目	精神看護学方法論Ⅰ	講師	医師として実務経験あり 看護師として実務経験あり (精神科勤務経験あり)		
時期	2 学年 5 月～7 月	単位数	1 単位 15 時間		
<p><目的> 精神保健医療、精神看護の変遷から精神に障害を持つ人の置かれてきた状況を理解し、対象の現状の問題と課題を学ぶ。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健医療の歴史・精神保健福祉法を精神保健看護の変遷と精神に障害を持つ人の置かれてきた状況から理解する。 2. 精神疾患と症状、診断、治療を理解する。 					
主題	時間数			内容	
1. 精神保健医療の歴史と精神保健福祉法	1. 精神保健医療の変遷 2. 精神看護の今度の課題 3. 地域保健制度と地域保健活動・システム			講義 2 時間	
2. 精神に障害を持つ人の理解	1. 精神障害の病因と分類 精神医学総論・精神疾患分類 2. 主な精神障害 統合失調症・気分(感情)障害 アルコール・覚せい剤依存症 てんかん・脳器質性精神障害 児童青年期精神障害・神経症性障害 老年性精神障害			講義 12 時間	
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度 1 時間				
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学[1] 精神看護の基礎 ・精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 2018 年 第 5 版第 2 刷 					

専門分野Ⅱ (精神看護学)

科目名	精神看護学方法論Ⅱ		講師	看護師として実務経験あり (精神科勤務経験あり)	
時期	2 学年 10 月～2 月		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> 精神に障害を持つ人の特徴的な症状と、その症状によって引き起こされている日常生活のしづらさを理解して、必要な看護の方法を学ぶ。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの健康障害によって引き起こされている、日常生活のしづらさに焦点をあて看護を提供する方法を理解する。 2. 統合失調症の急性期～慢性期～社会復帰までの看護を理解する。 3. 精神に障害をもつ人の治療法が日常生活に及ぼす影響と、その看護を理解する。 					
主題		内容		授業方法	
1. 精神に障害を持つ人の看護		1. こころの健康障害時にみられる生活障害と看護 1) 精神科看護婦の役割 2) 幻覚・妄想状態にある人の看護 3) ひきこもり状態にある人の看護 4) 躁状態・抑うつ状態にある人の看護 5) 不安状態にある人、操作、試し行為のある人の看護 6) 強迫行為のある人、衝動行為のある人への看護 7) 意識障害、昏迷状態にある人への看護 8) 摂食障害のある人への看護 9) 嗜癖と依存症の看護		講義 18 時間	
2. 精神に障害を持つ人の治療法と看護		2. 治療検査を受ける患者の看護 1) 検査を受ける患者の看護 2) 薬物療法と看護 3) 身体療法と看護 4) 精神療法と看護 5) 生活療法と看護 6) 行動制限と看護		講義 10 時間	
評価		筆記試験 出席状況及び学習態度			
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学[1] 精神看護の基礎 ・精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 2018 年 第 5 版第 2 刷 					

専門分野Ⅱ(精神看護学)

科目名	精神看護学演習	講師	看護師として実務経験あり (精神科勤務経験あり)		
時期	2 学年 7 月～3 月	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 精神に障害を持つ人への理解を深め、精神に障害を持つ人の看護過程展開の方法を学び、看護を実践できる基礎的能力を習得する。</p> <p><学習目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己理解を通して、他者理解を深める援助方法について学ぶ。 2. 患者―看護師関係から治療的關係に発展する過程と援助方法を学ぶ。 3. 精神に障害をもつ人への援助方法と看護過程の展開を学ぶ。 4. 精神に障害をもつ人の理解と生活の場の理解を深める。 					
主題	内容			授業方法	
1. 精神看護に必要な援助方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師の自己理解 プロセスレコードの活用 2. コミュニケーション技術 傾聴・受容・共感 			演習 12 時間	
2. 精神に障害を持つ人の看護過程	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者―看護師関係の発展 対人関係上の課題 精神カンファレンスの活用 プロセスレコードの活用 2. 紙上事例紹介 精神状態のアセスメント 精神状態と生活障害の把握 看護の方向性の明確化 3. 看護実践の方法と治療的關係の終結 患者と共に考える援助 患者からのフィードバック 			演習 12 時間	
3. 生活の場と看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当事者からのメッセージ 2. 精神病院の見学 			演習 4 時間 当事者 2 時間	
評価	各レポートで評価：プロセスレコード、ロールプレイ 40 点 看護過程展開 60 点				
講義	なし	演習	30 時間	修了試験	提出物
<p><参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学[1] 精神看護の基礎 ・精神看護学[2] 精神看護の展開 医学書院 2018 年 5 版第 2 刷 					

統合分野(在宅看護論)

授業科目	在宅看護論目的論		講師	看護師として実務経験あり (訪問看護ステーション勤務)	
開講時期	2 学年 後期		単位数	1 単位 30 時間	
<p><目的> 地域で生活しながら療養する人々とその家族に必要な社会資源の活動・体制を理解し、在宅看護の現状と展望を踏まえ、看護職として果たす役割を理解する。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の目的・機能を理解する。 2. 在宅看護が必要とされる社会的背景を理解できる。 3. 在宅ケアを支える保健・医療・福祉制度と社会資源について理解できる。 4. 在宅看護の機能と役割を理解できる。 5. 在宅看護の課題と展望を考えることができる。 					
主題	内容			授業方法	
1. 在宅看護の定義・目的・変遷	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の定義 2. 在宅看護の目的 3. 在宅看護の変遷 4. 在宅看護が必要とされる背景 5. 在宅看護の倫理と基本理念 			講義 4 時間	
2. 在宅ケアを支える制度と社会資源	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護をめぐる保健医療制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療保険制度 2) 介護保険制度 			講義 8 時間	
	<ol style="list-style-type: none"> 2. 在宅看護に関連する社会資源 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会資源とは 2) 保健・医療・福祉機関の種類・役割・活動 <ol style="list-style-type: none"> ① 訪問看護ステーション ② 保健機関 ③ 医療機関 ④ 福祉機関 3) 地域包括支援センター施設見学 			講義 6 時間	
	<ol style="list-style-type: none"> 3. 在宅療養者とその家族のQOL向上に向けた福祉用具の活用(国際福祉機器展見学含む) 			講義 4 時間	
3. 在宅看護の機能と役割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の特性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護と医療機関内の看護の違い 2) 対象の生活の維持・拡大・自立へ援助 3) ケアマネジメント 4) 家族への援助 2. 在宅療養の継続を可能にする条件 <ol style="list-style-type: none"> 1) 継続看護の意義と実際 2) 施設内看護から在宅看護への継続 3) 外来看護の役割 3. 他職種との連携 			講義 4 時間	
4. 在宅看護の課題と展望	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の今後の課題と展望 2. 諸外国における在宅看護 			講義 2 時間	
評価	筆記試験 レポート 出席状況及び学習態度				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版 ・ 押川真喜子監修: 写真でわかる訪問看護 改訂第2版, インターメディカ ・ 国民衛生の動向, 厚生統計協会 					

統合分野(在宅看護論)

授業科目	在宅看護論 対象論		講師	看護師として実務経験あり (訪問看護ステーション勤務)	
開講時期	2 学年 前期		単位数	1 単位 15 時間	
<p><目的></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象者は、あらゆる健康段階、発達段階にある人が対象であり、在宅療養者だけではなく、その家族も看護の対象であるという特性を理解できる。 2. 在宅看護と施設看護の相違点を踏まえた上で、在宅療養する人に多くみられる疾患に応じた看護の特徴を理解する。 <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者の特徴を理解することができる。 2. 在宅療養者の家族の特徴を理解できる。 3. 在宅で療養する人に見られる主な疾患の特徴と在宅ケアについて理解できる。 					
主題		内容		授業方法	
1. 在宅療養者の特徴		1. 健康レベルからみた対象者の理解(終末期を含む) 2. ライフサイクルからみた対象者の理解		講義 2 時間	
2. 在宅療養者の家族の特徴		1. 家族とは・家族機能の変化と社会化 2. 在宅看護における家族の位置づけ・意味 3. 家族のセルフケア力・介護力		講義 4 時間	
3. 在宅で療養する人に見られる主な疾患と在宅ケア		1. 在宅療養する人に多く見られる疾患 2. 在宅療養を必要とする人たち 1) 高齢者 2) 障害者(児) 3) 難病療養者(児) 4) 感染症 5) 生活自立困難な人(独居など)		講義 8 時間	
評価		筆記試験 レポート 出席状況及び学習態度			
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版 ・押川眞喜子監修: 写真でわかる訪問看護 改訂第2版, インターメディカ ・国民衛生の動向, 厚生統計協会 					

統合分野(在宅看護論)

授業科目	在宅看護論方法論	講師	看護師として実務経験あり (訪問看護ステーション勤務)		
開講時期	2 学年 後期	単位数	1 単位 30 時間		
<p><目的> 疾病・障害を持ちながら在宅で療養・生活する人々とその家族に必要な在宅看護の知識・技術を学ぶ。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における看護の特徴が理解できる。 2. 在宅における生活支援の方法が理解できる。 3. 在宅療養における医療処置の種類・適応について理解できる。 4. 在宅療養者と家族の援助方法について理解できる。 					
主題	内容		授業方法		
1. 在宅看護における看護の特徴	1. コミュニケーション技術 1) 対人関係の技術 ①対象主体の考え方 ②家庭訪問時のエチケット・マナー 2) 在宅看護における教育的支援 2. 在宅看護における観察技術 1) 療養者の観察 2) 家族の観察 3) 居住環境・地域環境の観察 3. 訪問者の取り扱い 4. 在宅におけるリスクマネジメント 5. 在宅看護における看護のプロセス 1) 在宅看護におけるアセスメントの視点 2) 在宅看護における看護上の問題点の明確化 3) 看護計画立案、介入、評価、再アセスメント		講義 8 時間		
2. 在宅における生活支援の方法	1. 家庭看護技術の特徴と介護用品の工夫 1) 食事 2) 排泄 3) 清潔 4) 移動		講義 4 時間		
3. 在宅療養における医療処置の種類・適応	1. 在宅医療機器を使用している療養者・家族への援助 1) 在宅酸素療法(人工呼吸器・NIPPV) 2) カテーテル挿入中の援助 (尿道留置カテーテル・経管栄養法・中心静脈栄養法・CAPD療法) 2. 褥瘡の予防とケア		講義 6 時間		
4. 在宅療養者と家族の援助方法	1. 寝たきり状態にある人 2. ターミナル期の療養者 3. 難病療養者 4. 認知症および精神障害のある人		講義 10 時間		
評価	筆記試験 出席状況及び学習態度				
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p><テキスト・参考文献></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版 ・押川眞喜子監修: 写真でわかる訪問看護 改訂第2版, インターメディカ ・国民衛生の動向, 厚生統計協会 					

統合分野(在宅看護論)

授業科目	在宅看護論演習	講師	看護師として実務経験あり (在宅領域での勤務経験あり)
開講時期	2 学年 後期	単位数	1 単位 30 時間

<目的>

1. 全領域で学んだ知識を統合させ、これまで学んできた看護技術や、病院での実習における援助との違いを踏まえ、訪問看護に必要な基本的な看護技術の習得を目指す。
2. 具体的な事例に基づき、在宅療養を困難にさせる問題に対して、訪問看護計画を立案し、解決の方法を学ぶ。その過程において、療養者・家族やその生活の捉え方、コミュニケーション技術、マネジメント能力、看護技術の創意・工夫などの能力を養う。

<目標>

1. 在宅療養者への看護過程の展開方法とその特徴がわかる。
2. 在宅看護に必要な基本的な看護技術の方法を理解する。

主題	内容	授業方法			
1. 看護過程の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で療養する療養者とその家族の理解 (要介護度、療養環境、訪問看護指示書、居宅サービス計画書、訪問看護計画、社会資源等) 2. 在宅で療養する療養者とその家族の看護問題を把握し、問題解決に向けて、看護計画を立案する(個人ワークおよびグループワークにて) <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護力の評価 2) 社会資源の活用方法による看護の方向性 	演習 16 時間			
2. 在宅で生活するための援助技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外出支援 <ol style="list-style-type: none"> 1) 車椅子での散歩 2) 杖歩行 3) シルバーカー 2. 在宅療養中の療養者の入浴、洗髪 3. 在宅療養中の療養者の食事への援助(自助具等) 4. 在宅療養者の酸素吸入や人工呼吸器の管理 5. 在宅療養者の経管栄養 	演習 12 時間			
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問時のマナー 2. 訪問にあたっての留意点(役割演技等) 	演習 2 時間			
評価	看護過程の展開 演習出席 レポートなど				
講義	なし	演習	30 時間	修了試験	提出物

<テキスト・参考文献>

- ・ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版
- ・押川眞喜子監修: 写真でわかる訪問看護 改訂第2版, インターメディカ

統合分野(看護の統合と実践)

授業科目	看護と法的責任Ⅱ	講師	弁護士として実務経験あり		
時期	2 学年 前期	単位数	1 単位 15 時間		
<p>ねらい 保健医療について制度や法律、看護実践に関わる法律について知識を習得する。</p> <p>学習目標 個人情報保護について実践の場での活用を習得する。 看護の法的責任について実際の判例などを通して理解する。</p>					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肖像権 個人情報保護法 2. 看護師と法的責任 <ol style="list-style-type: none"> 1) 民事責任 2) 刑事責任 3) 過失 3. 医療過誤・看護過誤 裁判例から考える 					
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
<p>【テキスト】 看護学生のための法学/改訂版 日本看護学校協議会共済会</p>					
<p>【評価方法】 筆記試験 出席状況及び学習態度</p>					

統合分野(看護の統合と実践)

授業科目	災害看護	講師	看護師として実務経験あり (DMATとして経験あり)		
時期	3 学年	単位数	1 単位 15 時間		
<p>ねらい 災害時の看護など広い視野に基づき看護活動できる能力を養う。</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害直後から支援できる災害看護の基礎的知識が理解できる。 2. 被災者特性に応じた災害看護の基礎的知識が理解できる。 3. 災害と心のケアについて理解できる。 4. トリアージについて理解できる。 					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害看護、災害医療の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 定義 2) 種類と分類 3) 災害関連死 4) 活動時の 7 要素 5) 災害と情報 6) 災害対応、連携 7) DMAT の活動 2. 災害看護と法律 3. 防災対策の動向 4. 災害発生時の看護師の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害サイクル 2) 要援護者 3) 災害看護活動 5. トリアージについて 6. 被災者の支援活動 心のケア 7. 災害医療活動、地域における災害時の取組 8. 固定法、搬送法 					
講義	14 時間	演習	なし	修了試験	1 時間
<p>【テキスト】 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院</p>					
<p>【評価方法】 筆記試験 出席状況及び学習態度</p>					

統合分野(看護の統合と実践)

授業科目	医療安全と看護の統合		講師	看護師(医療安全管理者)として 看護師(感染対策管理者)として 実務経験あり	
時期	3 学年		単位数	1 単位 30 時間	
<p>ねらい 医療安全の基礎的知識を理解し、安全に基づいた看護実践ができる能力を養う。</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における安全管理の基盤を理解する。 2. リスクマネジメントの概念を理解する 3. 事故防止に必要な考え方、看護業務における事故防止対策を理解する。 4. インシデントレポートの意義を理解する。 5. 医療安全とコミュニケーションの重要性について理解する。 6. 組織としての医療安全を理解する。 7. 医療安全対策の国内外の潮流について理解する。 					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全を学ぶことの大切さ 2. 事故防止の考え方 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護事故の構造と事故防止 3. 看護実践における事故防止 <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療の補助の事故防止 <ol style="list-style-type: none"> (1) 注射業務と事故防止 (注射準備 K Y T) (2) 注射業務に用いる機器での事故防止 (3) 輸血業務と事故防止 (4) 内服与薬業務と事故防止 (5) 経管栄養業務と事故防止 (6) チューブ管理と事故防止 (7) 療養上の世話と事故防止 (8) 転倒、転落防止 (歩行介助 K Y T) (9) 摂食中の窒息、誤嚥防止 (10) 異食事故防止 (11) 入浴中の事故防止 4. 医療安全とコミュニケーション 5. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 (抗がん剤、放射線、院内暴力) 6. 組織的な安全管理対策への取組み 7. 医療安全対策の国内外の潮流 8. 職業感染、標準予防策 9. 医療安全 国家試験対策 					
講義	28 時間	演習	なし	修了試験	2 時間
<p>【テキスト】 系統看護学講座 統合分野 医療安全 医学書院</p>					
<p>【評価方法】 筆記試験 出席状況及び学習態度</p>					

統合分野(看護の統合と実践)

授業科目	看護管理	講師	看護師(看護部長)として 実務経験あり		
時期	3 学年	単位数	1 単位 15 時間		
<p>ねらい 今までの学習を統合させ、チーム医療及び他職種との協調の中でメンバーシップ、リーダーシップを理解し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。</p> <p>学習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の定義、概念を理解する 2. 看護サービスマネジメントの概念を理解する 3. 看護におけるメンバーシップ及びリーダーシップのあり方を理解する 4. 医療チームの必要性と他職種との協働・連携のあり方を理解する 5. キャリアマネジメントについて理解する。 6. 看護師として働く心構えを学ぶ 					
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理とは 現代の医療情勢 看護管理の概念 2. 看護マネジメント <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護ケアのマネジメント 組織と理念について 2) 看護サービスのマネジメント 組織論 サービスの提供のしくみ 看護サービス演習(理想の看護実践のためのモデル作り) 3. 看護キャリア開発 					
講義	10 時間	演習	4 時間	修了試験	1 時間
<p>【テキスト】 系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院</p>					
<p>【評価方法】 筆記試験 出席状況及び学習態度</p>					

臨地実習

授業科目	基礎看護学臨地実習 I	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	I-1 1年前期 I-2 1年後期	単位数	1単位 45時間 I-1 17時間 I-2 28時間
<p>【実習目的】 対象の基本的欲求と看護の必要性を理解し、日常生活の援助が実践できる能力を養う (基礎看護学臨地実習 I-1・I-2 共通)</p> <p>【基礎看護学臨地実習 I-1 実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療機関(病院)の果たす役割について知る。 2) 患者を支える医療チームの構成について知る。 3) 保健医療福祉チームの連携と看護職の役割を知る。 4) 入院患者の療養生活の実際を知る。 5) 入院患者の日常生活援助の実際を知る。 6) 看護者・学習者としての役割・態度について考えることができる。 <p>【基礎看護学臨地実習 I-2 実習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護理論(V.ヘンダーソン)に基づき、基本的欲求を視点として、対象の日常生活に伴う援助の必要性について考えることができる。 2) 対象に必要な日常生活援助を安全・安楽に実践することができる。 3) 実践した援助を振り返り、対象にとって個別的な援助方法の必要性について理解できる。 4) 対象と円滑にコミュニケーションを図る必要性について理解し、実践できる。 5) 看護者・学習者としての役割・態度について考えを深めることができる。 			
<p>おもな内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学臨地実習 I-1 〈実習内容〉 医療機関(病院)の機能と役割 対象理解(生活環境・日常生活援助の側面から) 〈実習場所〉 JCHO 横浜中央病院 JCHO 相模野病院 JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院 JCHO 東京蒲田医療センター 2. 基礎看護学臨地実習 I-2 〈実習内容〉 基本的欲求を視点とした日常生活援助の必要性の判断 日常生活の実際 〈実習場所〉 JCHO 横浜中央病院 JCHO 相模野病院 JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院 JCHO 東京蒲田医療センター 			
<p>詳細は実習要項 参照</p>			
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学臨地実習 I-1、I-2 合計しての評価 ・評価対象:実習目的・目標に基づき、実習記録物の他実習期間を通して全て行動が評価対象 ・基礎看護学臨地実習 I 評価表使用 			

臨地実習

授業科目	基礎看護学臨地実習Ⅱ	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	2年 後期	単位数	2単位 90時間

【実習目的】

健康障害のある患者を全人的にとらえ、問題解決思考に基づいて看護を展開する基本を学ぶ。

【実習目標】

- 1) 適切な情報源から必要な情報を意図的に収集できる。
- 2) 看護理論（V.ヘンダーソン）に基づき、基本的欲求の充足状態を判断することができる。
- 3) 問題解決技法を活用し、看護上の問題点を明確にし、看護計画を立案することができる。
- 4) 立案した看護計画をふまえ、対象に応じた日常生活援助を実践することができる。
- 5) 立案した看護計画の評価を通して、評価の重要性について理解できる。
- 6) 看護過程の各段階とその相互作用について理解を深めることができる。
- 7) 対象との信頼関係を築く上でコミュニケーションおよび対象に応じた援助を実施することの重要性について理解できる。
- 8) 看護者・学習者としての役割・態度について考えを深めていくことができる。

おもな内容 〈実習内容〉 受持患者を1名担当 看護過程の展開

実習目標	実習内容および方法
目標1)	<ul style="list-style-type: none"> * 事前学習 * 学習目標レポート 臨地実習の目的・目標に沿って、自己の学習目標を設定する。 * 事前学習やアセスメントツールを活用し、系統的・意図的に情報収集を進める。 * 援助を通して患者・家族とのコミュニケーションを図りながら情報収集する。 * 基本的欲求の項目に沿って主観的情報・客観的情報を整理する。
目標2)	<ul style="list-style-type: none"> * 収集した情報を正常値や健康時と比較して、逸脱している情報（問題視する情報）を抽出する。 * 逸脱の原因、誘因、予測される事、対象自身で解決可能な事か否か、看護の視点で分析する。 * 基本的欲求の充足・未充足を判断し、各項目間の関連を判断する。 * 対象を全体論的（身体・精神・社会）な視点で把握し、看護的視点での健康上の問題の有無を確認する。さらにその問題の性質（顕在的問題、潜在的問題）、問題の本質（原因・誘因、事実の関連性）を確認する。
目標3)	<ul style="list-style-type: none"> * 優先順位ごとに PES 方式で問題点を記述する。 * 目標の設定に当たっては、RUMBA の法則を活用し、患者にとって無理のない目標を設定する。 * 短期目標は、1週間前後で達成される目標とし、問題点ごとに設定する。 * 観察・ケア・教育の3つの視点で援助計画の具体策を5W1Hの要素を含めて記述する。 * 看護計画に基づいて日々の実習計画を立案する。
目標4)	<ul style="list-style-type: none"> * 計画を基に対象に合わせた看護を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・看護の実践が可能かを判断 ・対象に適した援助方法の判断 ・対称に適した援助方法への修正 ・対象の反応を見ながらの看護実践 ・基本に基づき対象にあった方法（応用・創意・工夫）での実践
目標5)	<ul style="list-style-type: none"> * 対象の状態に応じて日々の実習計画を修正する。 * 短期目標の達成度及び妥当性、看護過程の各段階が適切であったかについて評価する。
目標6)～8)	<ul style="list-style-type: none"> * 日々のコミュニケーションおよび日常生活援助場面における対象の反応から患者－看護師関係のあり方について振り返る。 * 患者－看護師関係について振り返る上で、プロセスレコードを活用する。 * まとめの会において、実習目標に沿って自己の学びや達成度を振り返る * 実習後、「自己の学び」をレポートとしてまとめる。

〈実習場所〉

JCHO 横浜中央病院
JCHO 相模野病院
JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院
JCHO 東京蒲田医療センター

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象:実習目的・目標に基づき、実習記録物の他実習期間を通して全て行動が評価対象
- ・基礎看護学臨地実習Ⅱ 評価表使用

臨地実習

授業科目	成人看護学臨地実習 I	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	2年 前期	単位数	1単位 45時間

【実習目的】

健康期にある成人の特徴を理解し、対象に必要な看護の実際を学ぶ。

【実習目標】

- 1) 健康期にある成人について理解する。
- 2) 成人の健康に関連する要因を理解する。
- 3) 成人の健康の保持・増進および疾病予防への援助を理解する。
- 4) 健康期にある成人の健康の保持・増進のための看護の役割を理解する。
- 5) 学習者として主体的な行動を身につける。

おもな内容

〈実習内容〉

1) 実習時間(1単位 45時間)

- (1) 病院健康管理センター … 7.5時間×2日 7:30～16:00
- (2) 体験学習グループワーク … 7.5時間×2 ※学内にて15時間
- (3) 企業 … 7.5時間×2日

2) 健康期にある成人の健康の保持増進、また労働条件や労働環境に関連する健康障害の予防を目的に組織的に展開される産業保健活動と看護職の役割および保健指導の実際について学ぶ。

- (1) 病院の健康管理センターにて、健康診断受診者に実施される健康診断の実際と保健指導技術を学ぶ。
- (2) 企業における労働衛生対策の実際を学ぶ。
- (3) 労働に起因する健康問題の特性と労働者の健康管理に携わる看護職の機能について学ぶ。

〈実習場所〉

- JCHO 横浜中央病院
- JCHO 相模野病院
- JCHO 東京蒲田医療センター
- 一般企業

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象: 実習状況・記録物・出席日数等により総合的に評価する。
- ・成人看護学臨地実習 I 評価基準に則り評価する。

臨地実習

授業科目	成人看護学臨地実習Ⅱ	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	2年 後期	単位数	2単位 90時間

【実習目的】

慢性期・回復期にある成人の特徴を理解し、対象に必要な看護が展開できる能力を養う。

【実習目標】

- 1) 健康障害をもつ成人とその家族について理解できる。
- 2) 慢性期・回復期にある成人の健康問題が理解できる。
- 3) 対象の健康問題を解決するために慢性期・回復期をふまえた個別性のある看護計画を立案できる。
- 4) 立案した看護計画を基に、安全・安楽を考え自立・自律に向けた看護が実践できる。
- 5) 看護過程の評価プロセスをとおして、評価ができる。
- 6) 慢性期・回復期にある成人の看護実践を通して、自己の看護に対する考えを深めることができる。
- 7) 看護者・学習者としての役割・態度を考え行動できる。健康期にある成人の特徴を理解し、対象に必要な看護の実際を学ぶ。

おもな内容

〈実習内容〉

原則的に慢性期・回復期にある患者を1名受け持ち、一連の看護過程を展開していく。

実習期間中に立案した看護計画を評価し、修正後に修正された看護計画を実践する。

〈実習場所〉

JCHO 横浜中央病院

JCHO 相模野病院

JCHO 横浜保土ケ谷中央病院

JCHO 東京蒲田医療センター

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象：実習状況・記録物・出席時間等により総合的に評価する。
- ・成人看護学臨地実習Ⅱ 評価基準に則り評価

臨地実習

授業科目	成人看護学臨地実習Ⅲ	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	1単位 45時間
【実習目的】 各健康段階にある成人の特徴を理解し、対象に必要な看護の実際を学ぶ。			
【実習目標】 1) 各健康段階にある成人の特徴を理解する。 2) 各健康段階にある成人のための療養環境を理解する。 3) 各健康段階にある成人に対するチームアプローチの実際を理解する。 4) 各健康段階における成人看護の役割について考え、看護観を深めることができる。			
おもな内容 〈実習内容〉(各健康段階別看護実習) 1)実習時間 (1単位 45時間 7.5時間 × 6日) (1)ホスピス (2)透析センター (3)リハビリテーション (4)救命救急センター 各1日 (5)学内実習 2日 2)各健康段階および看護の特徴各健康段階における学習目標の概要を健康段階に沿って以下の①～④にまとめる。 ①生命の危機状況にある成人の特徴を理解し、救命救急センターの療養環境と救命看護の専門施設についての理解を深めると共に、看護の役割とチームアプローチの実際について考え、学習する。 ②回復期にある成人の特徴を理解し、障害を持ちつつ地域で生活していく成人に向けて、残存機能を拡大、維持していくための専門施設とその周辺の環境について理解を深めると共に、看護の役割とチームアプローチの実際について考え、学習する。 ③慢性期疾患と向き合い、自己管理をしながら生活をしていく成人の特徴を理解し、腎臓機能の維持及び機能悪化や合併症を予防していくための専門施設について理解を深めると共に、看護の役割とチームアプローチの実際について考え、学習する。 ④終末期にある成人の特徴を理解し、終末期の療養環境を深めると共に、看護の役割とチームアプローチの実際について考え、学習する。 〈実習場所〉 社会福祉法人日本医療伝道会総合病院衣笠病院 JCHO 湯河原病院 JCHO 横浜中央病院 JCHO 相模野病院 JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院 日本医科大学武蔵小杉病院 横浜市立大学附属市民総合医療センター			
詳細は実習要項 参照			
【評価方法】 ・評価対象：実習状況・記録物・出席時間等により総合的に評価する。 ・成人看護学臨地実習Ⅲ 評価基準に則り評価			

臨地実習

授業科目	成人看護学臨地実習Ⅳ	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	2単位 90時間
【実習目的】 急性期にある成人の特徴を理解し、対象に必要な看護が実践できる能力を養う。			
【実習目標】 1) 周手術期にある成人とその家族について理解する。 2) 周手術期にある成人に対し、術前・術中・術後の個別性ある看護過程を展開する。 3) 周手術期にある成人に合併症予防・二次的障害予防・生活機能回復にむけた援助をする。 4) 周手術期にある成人の問題解決に向けて、医療チームの連携やチームの一員としての役割を理解する。 5) 実習での経験から自己の看護観を明確にし、発展させる。			
おもな内容 (実習内容) 1) 病棟実習では、全身麻酔で手術を受ける成人期にある患者を受け持ち、一連の看護過程を展開する。 ・受け持ち患者の術式の特徴や術後の一般経過、または急性期から回復期に至る一般経過をまとめる。 ・記録用紙を用いて情報を整理し、周手術期にある患者を理解する。 ・患者の健康問題状況を根拠に基づいて列挙し、看護問題に対して実習のその日1日で達成する目標及び計画を具体的に計画する。援助実施後、評価及び修正する。 ・手術後の患者の計画を立案する。詳細は次頁以降の手術室実習学習計画(週案)例を参考とする。 2) 手術室実習では、以下の目的・目標・方法に従い、受け持ち患者の手術を見学する。 ・手術室見学実習の目的 手術療法を見学し、手術を受ける患者の心理状態の把握と看護の方法を知ること、術後の看護を考 えることができる。 ・手術室見学実習の目標 ① 手術療法を受ける患者の看護の目的・内容および手術室看護師の役割について理解を深める ことができる。 ② 清潔・不潔区域を理解し、患者の安全を考えて行動することで、安全管理の視点が理解できる。 ③ 麻酔導入から手術、麻酔覚醒までの一連の観察点や看護援助を学ぶことができる。 ④ 全身麻酔や術式・手術体位などの術中の看護管理が術後にどのような影響を及ぼすか、合併症 予防の視点で考えることができる。 ⑤ 手術療法を受ける患者の心理状態を知り、精神的な関わりを考えることができる。 ⑥ 手術室と病棟との連携を知ること、継続看護の実際を理解することができる。 ⑦ 術前訪問に同行し、手術中に予測される問題点を明確に把握することができる。(可能であれば 術後訪問に同行する。) ⑧ 手術室における医療チームの連携を知ること、周手術期における看護師の役割が理解でき る。 (実習場所) JCHO 横浜中央病院 JCHO 相模野病院 JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院 JCHO 東京蒲田医療センター 横浜市立大学附属市民総合医療センター			
詳細は実習要項 参照			
【評価方法】 ・評価対象：実習状況・記録物・出席時間等により総合的に評価する。 ・成人看護学臨地実習Ⅳ 評価基準に則り評価			

臨地実習

授業科目	老年看護学臨地実習 I	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	2年 前期	単位数	1単位 45時間

【実習目的】

老年期にある人を理解し、老年看護の基礎的能力を養う。

【実習目標】

- 1) 介護老人保健施設および施設に生活する高齢者の特徴を理解する。
- 2) 高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーションがとれる。
- 3) 高齢者の残存機能を活かした日常生活援助ができる。
- 4) 高齢者のための在宅ケア活動を理解する。
- 5) 看護者・学習者としての役割・態度を理解し、行動化できる。

おもな内容

〈実習内容〉

1) 実習時間 1単位45時間

実習オリエンテーション 5時間(合同2時間、施設別2時間、グループ別1時間)

臨地実習 32時間(8:00~17:00・4日間)

学内実習 8時間

2) 実習方法

- (1) 介護老人保健施設で1名の高齢者を受け持ち3日間実習する。また、企画したレクリエーションを実施する。コミュニケーション場面を選択し、プロセスレコードを活用し分析する。
- (2) 4日間の実習のうち1日は、デイケアでの実習とする。
- (3) 原則として、受持ち制をとる。1名の学生が、1名の高齢者を受け持つが、他の高齢者とも積極的に関わる。施設内看護の役割については、施設内看護師のオリエンテーションを受ける。
- (4) 実習初日に施設オリエンテーションを受け、高齢者の環境、施設の特徴を理解し、既習知識との照合を行い、疑問の解決の場とする。
- (5) 学内実習ではテーマに基づきグループワーク、プロセスレコード発表会を行う。
- (6) 実習時間内に学習時間(30分)を計画し、記録や指導を受ける時間として活用する。
- (7) 介護老人保健施設での看護を理解し看護師の役割を考え、臨地実習終了後に、実習の学びをレポートする。

〈実習場所〉

介護老人保健施設さららの里

介護老人保健施設阿久和鳳荘

介護老人保健施設ハートケア横浜

介護老人保健施設リハリゾート青葉

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象:実習状況、カンファレンスへの参加状況、記録物、出席日数等により総合評価を行う。
- ・老年看護学臨地実習 I 評価基準に則り評価

臨地実習

授業科目	老年看護学臨地実習Ⅱ	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	2単位 90時間

【実習目的】

老年期にある人の特徴を理解し、健康の段階に応じた看護を実践する能力を養う

【実習目標】

- 1) 健康障害のある高齢者の特徴を理解できる
- 2) 健康障害のある高齢者の特徴を踏まえて健康上の問題を見出すことができる
- 3) 高齢者がより健康な生活が営めるように、自律に向けた援助ができる
- 4) 保健・医療・福祉チームにおける連携や場に応じた看護の機能を理解できる
- 5) 自己の看護を振り返り、高齢者にとってのQOLについて考え、看護観を明らかにできる
- 6) 老年期にある人を理解し、老年看護の基礎的能力を養う

おもな内容

〈実習内容〉

健康障害のある老年期にある対象を受持、その患者の看護過程の展開を行う。

- ① 1週目：対象と意図的なコミュニケーションか図れ、対象の疾患・加齢に伴う身体的影響が理解でき、優先順位を考え問題点が抽出できる。
- ② 2週目：高齢者の疾患・加齢から心理・社会的役割への影響を理解し、個別性に合わせた援助が行える。
- ③ 3週目：高齢者の疾患・加齢に伴う影響について3側面より捕らえ、看護展開できる。

〈実習場所〉

JCHO 横浜中央病院
JCHO 相模野病院
JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象:実習状況、カンファレンスへの参加状況、記録物、出席日数等により総合評価を行う。
- ・老年看護学臨地実習Ⅱ 評価基準に則り評価

臨地実習

授業科目	老年看護学臨地実習Ⅲ	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	1単位 45時間

【実習目的】

老年期にある人の特徴を理解し、対象に必要な外来看護を実践する能力を養う

【実習目標】

- 1) 外来受診する高齢者の特徴を理解する
- 2) 外来の機能・役割を理解し、外来診療に伴う高齢者への援助のあり方がわかる
- 3) 高齢者および家族を含めた健康教育・指導について理解する
- 4) 高齢者および家族に対する継続看護について理解する
- 5) 外来における保健・医療・福祉チームの連携を理解し、外来看護の役割を考えることができる。

おもな内容

〈実習内容〉 地域で暮らす老年者への看護:外来看護

- (1) 1グループ毎に、各実習病院の各科外来に分かれて実習を行う。
- (2) 1日の実習目標・計画を発表後、指導を受け、修正・追加後、計画に基づいて行動する。
- (3) 指導者(又は担当看護師)と共に行動し、外来における看護(診療の補助、患者指導など)の見学及び実施を行う。指導者(又は担当看護師)より説明を受け、共に行動し、外来の流れを知る。
- (4) 外来受診者(高齢者)及び家族へ、外来受診に関する話を聴く。
この際、自己紹介・話を伺う目的・内容等について説明し、了解を得てから行う。
外来受診者(高齢者)及び家族の方と共に、諸検査・治療・薬の授受・会計等の行動を共にし、高齢者の受診行動を体験するとともに、安全な移動の援助を行う。
この際も同様に、自己紹介・話を聴く目的・内容等について説明し、了解の得られた範囲で行う。
- (5) 実習期間内に、院内外の継続看護について説明を受ける。

〈実習場所〉

JCHO 横浜中央病院
JCHO 相模野病院
JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院
JCHO 東京蒲田医療センター
日本医科大学武蔵小杉病院

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象:実習状況、カンファレンスへの参加状況、記録物、出席日数等により総合評価を行う。
- ・老年看護学臨地実習Ⅲ 評価基準に則り評価

臨地実習

授業科目	小児看護学臨地実習	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	2単位 90時間
【実習目的】 小児看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、子どもとその家族に必要な看護を提供する実践力を養う。 1) 保育園実習 目的：保育園における遊びや日常生活の援助を通して、健康な乳幼児の成長発達を理解し、発達段階に応じた保育について学ぶ。 2) 小児病棟実習 目的：健康障害のある子どもを理解し、対象に応じた看護の実際を学ぶ。 【実習目標】 1) 子どもの特徴を理解し、成長・発達を促すための援助を考え、実践することができる。 2) 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響が解り、看護介入を考えることができる。 3) 小児看護に必要な基礎看護技術を体験・実施することができる。 4) 子どもの安全を守るために必要な看護管理の実際を理解する。 5) 子どもを取り巻く保健・医療・福祉・教育の連携の中で、小児看護の役割を考え理解する。			
おもな内容 〈実習内容〉 (1) 保育園における健康な子どもの理解 (2) 病棟における健康障害をもつ子どもの看護 4日間の保育園実習と8日間の小児病棟実習を通して、健康な子どもと健康障害のある子どもの日常生活に触れる。 さらに臨地での保育および看護の実際を通して、小児看護学の授業で学んだ知識と技術を最大限に活用して援助の提供を経験する。さらに保育園実習を経ての病棟実習においては、ヘンダーソンの看護論を用いてそれぞれの受持ち患児の発達段階・個性をふまえ、考え導き出した看護援助の提供に至る思考過程を、帰納的にたどることで看護の意味づけを行い、看護過程の展開を理解する。 〈実習場所〉 保育園 中村愛児園・クラウン・睦町・みなみマーノ保育園 医療施設 日本医科大学武蔵小杉病院 横浜市立大学附属病院 横浜市立大学附属市民総合医療センター			
詳細は実習要項 参照			
【評価方法】 ・評価対象：実習状況、実習態度、提出記録物、出席状況から総合的に判断する。 ・小児看護学臨地実習 評価基準に則り評価			

臨地実習

授業科目	母性看護学臨地実習	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	2単位 90時間

【実習目的】

妊産褥婦と胎児・新生児の特徴を理解し、母子および家族や地域に対する看護が実践できる基礎的能力を養う。

【実習目標】

- 1) 妊娠の正常な経過を理解し、対象に応じた健康診査と保健指導が理解できる。
- 2) 分娩・産褥の正常な経過を通して、産婦・褥婦を理解し、対象に応じた看護と保健指導の実際を学ぶ。
- 3) 胎児・新生児の正常な経過を通して対象を理解し、新生児の基本的援助について実際を学ぶ。
- 4) 保健医療チームの一員としての看護師の役割が理解できる。
- 5) 母子保健事業の内容を知り、関係諸機関との連携・継続看護の必要性が理解できる。
- 6) 母性看護の対象の理解を深めるとともに、母性看護の活動の実際を学ぶ。
- 7) ハイリスクな対象の看護の実際について理解することができる。
- 8) 実習を通して生命の尊厳・倫理について自己の考えを深めることができる。

おもな内容

〈実習内容〉

- 1) 実習時間 2単位 90時間
(1) 病棟実習 82.5時間
(2) 外来実習 7.5時間

2) 実習方法

- (1) 病棟実習
分娩期の看護
産褥期の看護(母子同時に受持つ)
新生児期の看護(母子同時に受持つ)
- (2) 外来実習
産科外来にて、妊婦健診の見学および看護の一部を実施する。

〈実習場所〉

JCHO 相模野病院
日本医科大学武蔵小杉病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター
横浜市立大学附属病院

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象:実習状況・記録物、実習態度、出席日数等により総合的に評価する。
- ・母性看護学臨地実習 評価基準に則り評価

臨地実習

授業科目	精神看護学臨地実習	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	2単位 90時間

【実習目的】

精神の健康増進と精神に障害を持つ人とその家族を総合的に理解し、看護を実践する基礎的能力を養う。

【実習目標】

- 1) 精神に障害を持つ人とその家族との関わりから、その人を一人の人間としてありのままに受けとめ尊重し理解を深める。
- 2) 精神に障害を持つ人の症状と日常生活を理解することができる。
- 3) 精神に障害を持つ人の日常生活において必要な援助を考えることができる。
- 4) 精神に障害を持つ人の社会復帰活動を通して、社会資源や継続看護について理解できる。

おもな内容

〈実習内容〉

1) 実習時間 2単位 90時間

- (1) 病院実習 75時間 精神に障害を持つ人と家族の理解と看護
- (2) 地域実習 15時間 精神に障害を持つ人への社会的支援の理解

2) 実習方法

(1) 病院実習

1人の患者を受け持ち、日常生活援助を中心とした、対人関係的な看護過程を展開する。
実習期間中に学生が企画運営し、レクリエーションを実施する。

(2) 地域実習

作業所メンバーと共に一日のプログラムに参加し、一緒に行動する。

〈実習場所〉

医療施設

神奈川県立精神医療センター
財団法人積善会 日向台病院
横浜市立大学附属病院
横浜市立大学附属市民総合医療センター

地域施設

横浜市内地域作業所

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象: 実習状況・記録物、実習態度、出席日数等により総合的に評価する。
- ・精神看護学臨地実習 評価基準に則り評価

臨地実習

授業科目	在宅看護論臨地実習	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	2単位 90時間

【実習目的】

1. 地域で生活する人々の特徴を理解し、支援体制や社会資源、関係法規を知る。
2. 保健・医療・福祉の連携と継続看護について理解する。

【実習目標】

- 1) 在宅療養者とその家族の特徴が分かり、必要な在宅看護が分かる。
- 2) 在宅療養者を支える介護力についてアセスメントでき、必要なサービスについて理解できる。
- 3) 地域で生活するあらゆる健康のレベルにある人々の健康を支える社会的制度や支援システムについて理解できる。
- 4) 地域での保健福祉活動の実際を通して、保健・医療・福祉の連携と予防看護や継続看護を理解できる。

おもな内容

〈実習内容〉

1) 実習時間

- | | |
|------------------------|---------|
| (1) オリエンテーション | 9.5 時間 |
| (2) 訪問看護ステーション(退院調整含む) | 52.5 時間 |
| (3) 福祉保健センター | 7.5 時間 |
| (4) 地域施設 | 15.0 時間 |
| (5) 社会資源(福祉機器センター) | 7.5 時間 |

2) 実習方法

- (1) 訪問看護実習 : 実習期間 3 週間の中で調整する: 6 日間
 - ① 訪問看護師に同行し療養者への訪問の実際を把握し、対象理解を深める。
 - ② 実習開始後 4～5 日目にケースカンファレンスを行い、在宅療養者に必要な看護について事例をもとに学びを深める。
 - ③ 同行訪問では、訪問看護の実際の見学と訪問看護師の監督・指導のもとに一部援助を行う。
- (2) 退院調整: 実習期間 3 週間の中で調整する: 1 日間
 - ① 退院調整看護師と一日行動を共にし、退院調整看護師の役割について学習する
 - ② 午後には、病棟での合同カンファレンスに参加する。
- (3) 社会資源(福祉機器センター): 1 日間
 - ① 福祉機器の実際に触れて体験し、訪問看護実習に役立てる。
- (4) 地域施設(特別支援学校): 2 日間
 - ① 法的根拠をもとに特別支援学校の役割を理解し、児童、生徒および家族への支援の実際について学ぶ。

〈実習場所〉

1) 訪問看護ステーション

JCHO 横浜中央病院附属訪問看護ステーション
 JCHO 横浜保土ヶ谷中央病院附属訪問看護ステーション
 JCHO 相模野病院訪問看護ステーション

2) 退院調整

JCHO 横浜中央病院 退院調整室

3) 福祉保健センター

市町村保健センター(政令市、県域)

4) 地域施設

横浜市立中村特別支援学校

5) 社会資源

反町福祉機器支援センター

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象: 訪問看護ステーションおよび福祉保健センター、福祉機器支援センター、特別支援学校実習をあわせての評価、実習状況・記録物、実習態度、出席日数等により総合的に評価する。
- ・在宅看護論臨地実習 評価基準に則り評価

臨地実習

授業科目	看護の統合と実践臨地実習	担当教員 実習指導者	看護師として実務経験あり
時期	3年	単位数	2単位 90時間

【実習目的】

既習の知識・技術・態度を統合し、チームメンバーの一員としての看護実践能力を養う

【実習目標】

- 1) 全領域看護学臨地実習での学びを統合し、課題解決をすることができる。
- 2) 固定チームナーシングの一員として看護の実際と責任がわかる。
- 3) 固定チームナーシングにおけるリーダーとメンバーの協力・調整の実際がわかる。
- 4) 看護管理者の役割、業務内容がわかる。
- 5) 他職種との協力・調整の実際がわかる。
- 6) チームにおいて24時間継続される看護の実際がわかる。
- 7) 夜間の患者の状況を知り、患者を統合された生活体として理解する。
- 8) チームメンバーの一員として、役割と責任について考えることができる。

おもな内容

〈実習内容〉

- ・複数患者を担当し、チームの一員としての看護の実際と責任を学ぶ。
メンバー実習においては看護師が担当する対象(2名以上)の病棟の看護計画に基づき、1日の実習計画を発表し、随時計画の追加・修正を行い、看護援助に積極的に参加する。
- ・看護管理者、リーダー看護師の役割を学ぶ。
看護管理者、リーダー看護師に同行し、その役割や他職種との調整の実際を見学する。
- ・夜間実習(0:00~8:00)を行い、看護の継続性や夜間の看護の役割を学ぶ。

〈実習場所〉

JCHO 横浜中央病院

詳細は実習要項 参照

【評価方法】

- ・評価対象:実習状況・記録物、実習態度、出席日数等により総合的に評価する。
- ・看護の統合と実践臨地実習 評価基準に則り評価